

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部等連係課程実施基本組織の設置（学部の設置）								
フリガナ設置者	コクリツダクイフクホジシヨウ ヤマガタダクイフク 国立大学法人 山形大学								
フリガナ大学の名称	ヤマガタダクイフク 山形大学 (Yamagata University)								
大学本部の位置	山形県山形市小白川町一丁目4番12号								
大学の目的	山形大学は、教育基本法(平成18年法律第120号)の精神にのっとり、学術文化の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し知的道徳的及び応用的能力を展開させて、平和的民主的な国家社会の形成に寄与し、文化の向上及び産業の振興に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	地域課題を俯瞰的に思考するための文理を横断した学際的な専門知識と論理的思考力、地域の特性やニーズを捉えるデジタル利活用力、及びビジネス・アントレプレナーシップの視点で多様な人々と協働できるマネジメント力を用いて、地域課題の解決に貢献できる実践的能力を身に付けた人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	学部等連係課程組織 社会共創デジタル学環	4年	30人	—年次人	120人	学士（社会共創学）	経済学関係、理学関係	令和7年4月第1年次	山形県山形市小白川町一丁目4番12号
	連係協力学部（Ⅰ） 人文社会科学部								同上
	人文社会科学科	4年	290人	3年次20人	1200人	学士（文学） 学士（学術） 学士（法学） 学士（政策科学） 学士（経済学）	文学関係、法学関係、経済学関係	平成29年4月第1年次	同上
	人文社会科学科から社会共創デジタル学環の内数とする入学定員数		10人	—年次人	40人				
	連係協力学部（Ⅱ） 地域教育文化学部								同上
地域教育文化学科	4年	175人	—年次人	700人	学士（教育学） 学士（学術）	教育学・保育学関係、音楽関係、美術関係、体育学関係、家政学関係	平成24年4月第1年次	同上	
地域教育文化学科から社会共創デジタル学環の内数とする入学定員数		10人	—年次人	40人					



小計 (a～b)	33 【1】 (43)	18 【1】 (20)	11 【0】 (11)	0 【0】 (0)	62 【2】 (74)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a、b又はcに該当する者を除く)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)		
計 (a～d)	33 【1】 (43)	18 【1】 (20)	11 【0】 (11)	0 【0】 (0)	62 【2】 (74)		
計	33 【1】 (43)	18 【1】 (20)	11 【0】 (11)	0 【0】 (0)	62 【2】 (74)	0 【0】 (0)	32 【0】 (32)
地域教育文化学部 地域教育文化学科	22 【3】 (34)	24 【1】 (25)	12 【0】 (13)	0 【0】 (0)	58 【4】 (72)	0 【0】 (0)	90 【0】 (90)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	22 【3】 (34)	24 【1】 (25)	12 【0】 (13)	0 【0】 (0)	58 【4】 (72)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)		
小計 (a～b)	22 【3】 (34)	24 【1】 (25)	12 【0】 (13)	0 【0】 (0)	58 【4】 (72)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a、b又はcに該当する者を除く)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)		
計 (a～d)	22 【3】 (34)	24 【1】 (25)	12 【0】 (13)	0 【0】 (0)	58 【4】 (72)		
計	22 【3】 (34)	24 【1】 (25)	12 【0】 (13)	0 【0】 (0)	58 【4】 (72)	0 【0】 (0)	90 【0】 (90)
理学部 理学科	34 【3】 (39)	21 【0】 (22)	4 【0】 (4)	7 【0】 (8)	66 【3】 (73)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	34 【3】 (39)	21 【0】 (22)	4 【0】 (4)	7 【0】 (8)	66 【3】 (73)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)		
小計 (a～b)	34 【3】 (39)	21 【0】 (22)	4 【0】 (4)	7 【0】 (8)	66 【3】 (73)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a、b又はcに該当する者を除く)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)		
計 (a～d)	34 【3】 (39)	21 【0】 (22)	4 【0】 (4)	7 【0】 (8)	66 【3】 (73)		

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 14人

計	34 【3】 (39)	21 【0】 (22)	4 【0】 (4)	7 【0】 (8)	66 【3】 (73)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)
医学部 医学科	30 (30)	33 (33)	33 (33)	143 (143)	239 (239)	0 (0)	0 (0)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	30 (30)	33 (33)	33 (33)	143 (143)	239 (239)	/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	30 (30)	33 (33)	33 (33)	143 (143)	239 (239)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	30 (30)	33 (33)	33 (33)	143 (143)	239 (239)		
看護学科	9 (9)	5 (5)	2 (2)	10 (10)	26 (26)	0 (0)	0 (0)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	5 (5)	2 (2)	10 (10)	26 (26)	/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	9 (9)	5 (5)	2 (2)	10 (10)	26 (26)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	9 (9)	5 (5)	2 (2)	10 (10)	26 (26)		
計	39 (39)	38 (38)	35 (35)	153 (153)	265 (265)	0 (0)	0 (0)
工学部 高分子・有機材料工学科	18 (18)	8 (8)	0 (0)	4 (4)	30 (30)	0 (0)	0 (0)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	18 (18)	8 (8)	0 (0)	4 (4)	30 (30)	/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	18 (18)	8 (8)	0 (0)	4 (4)	30 (30)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	18 (18)	8 (8)	0 (0)	4 (4)	30 (30)		
化学・バイオ工学科	12 (12)	12 (12)	0 (0)	9 (9)	33 (33)	0 (0)	0 (0)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 (12)	12 (12)	0 (0)	9 (9)	33 (33)	/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	12 (12)	12 (12)	0 (0)	9 (9)	33 (33)		

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数  
105人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数  
9人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数  
8人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数  
8人

c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	12 (12)	12 (12)	0 (0)	9 (9)	33 (33)				
<b>情報・エレクトロニクス学科</b>	13 (13)	18 (18)	0 (0)	6 (6)	37 (37)	0 (0)	0 (0)		
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	13 (13)	18 (18)	0 (0)	6 (6)	37 (37)		大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	13 (13)	18 (18)	0 (0)	6 (6)	37 (37)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	13 (13)	18 (18)	0 (0)	6 (6)	37 (37)				
<b>機械システム工学科</b>	14 (14)	11 (11)	0 (0)	7 (7)	32 (32)			0 (0)	0 (0)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	14 (14)	11 (11)	0 (0)	7 (7)	32 (32)				大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	14 (14)	11 (11)	0 (0)	7 (7)	32 (32)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	14 (14)	11 (11)	0 (0)	7 (7)	32 (32)				
<b>建築・デザイン学科</b>	5 (5)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	9 (9)	0 (0)	0 (0)		
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	9 (9)		大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	5 (5)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	9 (9)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	5 (5)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	9 (9)				

システム創成工学科		6 (6)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 6 人
a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 12 人	0 (0)	
b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		6 (6)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	12 (12)			
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		6 (6)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	12 (12)			
計		68 (68)	56 (56)	0 (0)	29 (29)	153 (153)	0 (0)	0 (0)	
農学部 食料生命環境学科		19 (22)	31 (29)	0 (0)	9 (9)	59 (60)	0 (0)	0 (0)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 12 人
a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	19 (22)	31 (29)	0 (0)	9 (9)	59 (60)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 12 人	0 (0)	
b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		19 (22)	31 (29)	0 (0)	9 (9)	59 (60)			
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		19 (22)	31 (29)	0 (0)	9 (9)	59 (60)			
計		19 (22)	31 (29)	0 (0)	9 (9)	59 (60)	0 (0)	0 (0)	
合 計		224 (254)	191 (193)	62 (63)	198 (199)	675 (709)	0 (0)	260 (260)	
職 種		専 属			そ の 他			計	
事 務 職 員		354 (354)			264 (264)			618 (618)	
技 術 職 員		1,112 (1,112)			308 (308)			1,420 (1,420)	
図 書 館 職 員		6 (6)			0 (0)			6 (6)	
そ の 他 の 職 員		7 (7)			8 (8)			15 (15)	
指 導 補 助 者		0 (0)			0 (0)			0 (0)	
計		1,479 (1,479)			580 (580)			2,059 (2,059)	
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用			計		
	校 舎 敷 地	500,173㎡	— ㎡	— ㎡			500,173㎡		
	そ の 他	7,927,854㎡	— ㎡	— ㎡			7,927,854㎡		
	合 計	8,428,027㎡	— ㎡	— ㎡			8,428,027㎡		
校 舎	専 用	208,498㎡ ( 205,897 ㎡)	共 用	共用する他の 学校等の専用			計		
			— ㎡ ( — ㎡)	— ㎡ ( — ㎡)			208,498㎡ ( 205,897 ㎡)		

教室・教員研究室		教室		147室		教員研究室		1,233室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊		電子図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点	学部等単位での特定不能なため、大学全体の数
	学部等連係課程組織 社会共創デジタル学環	1,088,313 [309,660] (1,088,313 [309,660])		12,782 [4,785] (12,782 [4,785])		25,018 [7,089] (25,018 [7,089])		8,704 [7,147] (8,704 [7,147])		4,548 (4,548)	51 (51)	
	計	1,088,313 [309,660] (1,088,313 [309,660])		12,782 [4,785] (12,782 [4,785])		25,018 [7,089] (25,018 [7,089])		8,704 [7,147] (8,704 [7,147])		4,548 (4,548)	51 (51)	
スポーツ施設等		スポーツ施設			講堂			厚生補導施設			大学全体	
		7,795㎡			— ㎡			12,384㎡				
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による			
		教員1人当り研究費等	—	—	—	—	—	—				
		共同研究費等	—	—	—	—	—	—				
		図書購入費	—	—	—	—	—	—				
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—				
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円					
学生納付金以外の維持方法の概要		—										
既設大学等の状況												
大学等の名称		山形大学										
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地				
人文社会科学部	年	人	年次人	人		倍						
人文社会科学科	4	290	3年次 20	1200	学士(文学) 学士(学術) 学士(法学) 学士(政策科学) 学士(経済学)	1.07	平成29年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号				
人文学部												
人間文化学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成8年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	平成29年度より学生募集停止			
地域教育文化学部												
地域教育文化学科	4	175	—	700	学士(教育学) 学士(学術)	1.03	平成24年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号				
理学部												
理学科	4	210	—	840	学士(理学)	1.05	平成29年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号				
医学部												
医学科	6	113	—	684	学士(医学)	1.02	昭和48年度	山形県山形市飯田西二丁目2番2号				
看護学科	4	60	3年次 5	250	学士(看護学)	0.97	平成5年度	同上				
工学部												
高分子・有機材料工学科	4	140	—	560	学士(工学)	1.02	平成29年度	山形県米沢市城南四丁目3番16号				
化学・バイオ工学科	4	140	—	560	学士(工学)	1.03	平成29年度	同上				

	情報・エレクトロニクス学科	4	150	—	600	学士（工学）	1.08	平成29年度	同上
	機械システム工学科	4	140	—	560	学士（工学）	1.05	平成29年度	同上
	建築・デザイン学科	4	30	—	120	学士（工学）	1.19	平成29年度	同上
	システム創成工学科	4	50	—	200	学士（工学）	1.02	平成22年度	同上
	農学部								
	食料生命環境学科	4	165	—	660	学士（農学）	1.04	平成22年度	山形県鶴岡市若葉町1番23号
	大 学 等 の 名 称	山形大学大学院							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	開設 年度	所 在 地
		年	人	年次 人	人		倍		
	社会文化創造研究科 (修士課程)								
	社会文化創造専攻	2	24	—	48	修士（文学） 修士（政策科学） 修士（臨床心理学） 修士（学術）	1.10	令和3年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号
	医学系研究科 (博士課程)								
	医学専攻	4	26	—	104	博士（医学）	0.98	昭和54年度	山形県山形市飯田西二丁目2番2号
	(博士前期課程)								
	看護学専攻	2	10	—	20	修士（看護学）	1.38	平成9年度	山形県山形市飯田西二丁目2番2号
	先進的医科学専攻	2	6	—	12	修士（医科学）	1.50	平成29年度	同上
	(博士後期課程)								
	看護学専攻	3	3	—	9	博士（看護学）	1.66	平成19年度	山形県山形市飯田西二丁目2番2号
	先進的医科学専攻	3	4	—	12	博士（医科学）	1.25	平成29年度	同上
	理工学研究科 (博士前期課程)								
	理学専攻	2	53	—	106	修士（理学）	1.29	平成29年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号
	機械システム工学専攻	2	63	—	126	修士（工学）	1.19	平成5年度	山形県米沢市城南四丁目3番16号
	化学・バイオ工学専攻	2	67	—	134	修士（工学）	1.08	令和3年度	同上
	建築・デザイン・マネジメント専攻	2	12	—	24	修士（工学）	1.00	令和3年度	同上
	ものづくり技術経営学専攻	2	—	—	—	修士（工学）	—	平成17年度	同上
既設大学等の									令和3年度より学生募集停止

状況	(博士後期課程)									
	地球共生圏科学専攻	3	5	—	15	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	1.33	平成11年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	
	先進工学専攻	3	16	—	16	博士(工学)	0.62	令和5年度	山形県米沢市城南四丁目3番16号	
	物質化学工学専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成28年度	同上	令和5年度より学生募集停止
	バイオ工学専攻	3	—	—	—	博士(工学) 博士(学術)	—	平成22年度	同上	令和5年度より学生募集停止
	電子情報工学専攻	3	—	—	—	博士(工学) 博士(学術)	—	平成22年度	同上	令和5年度より学生募集停止
	機械システム工学専攻	3	—	—	—	博士(工学) 博士(学術)	—	平成22年度	同上	令和5年度より学生募集停止
	ものづくり技術経営学専攻	3	—	—	—	博士(工学) 博士(学術)	—	平成19年度	同上	令和5年度より学生募集停止
	有機材料システム研究科			—						
	(博士前期課程)									
有機材料システム専攻	2	98	—	196	博士(工学)	1.12	平成28年度	山形県米沢市城南四丁目3番16号		
(博士後期課程)										
有機材料システム専攻	3	10	—	30	博士(工学)	1.46	平成28年度	山形県米沢市城南四丁目3番16号		
農学研究科										
(修士課程)										
農学専攻	2	38	—	76	修士(農学)	1.42	令和3年度	山形県鶴岡市若葉町1番23号		
教育実践研究科										
(専門職学位課程)										
教職実践専攻	2	20	—	40	教職修士(専門職)	1.05	平成21年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号		
名称：医学部附属病院										
目的：診療を通して，教育，研究及び学生の臨床実習の場を提供する。										
所在地：山形県山形市飯田西二丁目2番2号										
設置年月：昭和51年5月										
規模：土地 71,275 m <sup>2</sup> ，建物 56,181 m <sup>2</sup>										
名称：農学部附属やまがたフィールド科学センター（農場・演習林）										
目的：環境保全型農林業の実践教育や自然と人間との関係を結ぶ体験学習の場を提供する。										
所在地：（農場）山形県鶴岡市高坂字古町5番3号 （演習林）山形県鶴岡市上名川字早田川10										
設置年月：昭和24年5月										
規模：（農場）土地 240,655 m <sup>2</sup> ，建物 4,067 m <sup>2</sup> （演習林）土地 7,530,908 m <sup>2</sup> ，建物 885 m <sup>2</sup>										

附属施設の概要	<p>名 称：ものづくりセンター（実習工場）</p> <p>目 的：工学部の全学科を対象とした実習工場としての場を提供する。</p> <p>所 在 地：山形県米沢市城南四丁目3番16号</p> <p>設置年月：平成22年4月</p> <p>規 模：建物 2,434 m<sup>2</sup></p>
	<p>名 称：附属学校（幼稚園，小学校，中学校，特別支援学校）</p> <p>目 的：教育実習指導，大学との共同研究に取り組み，地域教育拠点となる。</p> <p>所 在 地：（附属幼稚園）山形県山形市松波二丁目7番1号  （附属小学校）山形県山形市松波二丁目7番2号  （附属中学校）山形県山形市松波二丁目7番3号  （附属特別支援学校）山形県山形市飯田西三丁目2番55号</p> <p>設置年月：昭和26年4月（幼稚園，小学校，中学校）  昭和49年4月（特別支援学校）</p> <p>規 模：（附属幼稚園） 土地 13,442 m<sup>2</sup>， 建物 992 m<sup>2</sup>  （附属小学校） 土地 21,791 m<sup>2</sup>， 建物 7,535 m<sup>2</sup>  （附属中学校） 土地 24,761 m<sup>2</sup>， 建物 6,852 m<sup>2</sup>  （附属特別支援学校） 土地 19,831 m<sup>2</sup>， 建物 3,982 m<sup>2</sup></p>

- (注)
- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
  - 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については，専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」，専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
  - 3 「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとする。
  - 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
  - 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」，「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
  - 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
  - 7 空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

# 国立大学法人山形大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>山形大学</b>				<b>山形大学</b>				
人文社会科学部		3年次		人文社会科学部		3年次		
人文社会科学科	290	20	1,200	人文社会科学科	290	20	1,200	
地域教育文化学部				地域教育文化学部				
地域教育文化学科	175	—	700	地域教育文化学科	175	—	700	
理学部				理学部				
理学科	210	—	840	理学科	210	—	840	
医学部				医学部				
医学科(6年制)	105	—	630	医学科(6年制)	105	—	630	
		3年次				3年次		
看護学科	60	5	250	看護学科	60	5	250	
工学部				工学部				
高分子・有機材料工学科	140	—	560	高分子・有機材料工学科	140	—	560	
化学・バイオ工学科	140	—	560	化学・バイオ工学科	140	—	560	
情報・エレクトロニクス学科	150	—	600	情報・エレクトロニクス学科	150	—	600	
機械システム工学科	140	—	560	機械システム工学科	140	—	560	
建築・デザイン学科	30	—	120	建築・デザイン学科	30	—	120	
システム創成工学科	50	—	200	システム創成工学科	50	—	200	
農学部				農学部				
食料生命環境学科	165	—	660	食料生命環境学科	165	—	660	
				<b>社会共創デジタル学環</b>	<u>30</u>	—	<u>120</u>	学部等連係課程実施基本組織の設置(事前相談)
計	1,655	25	6,880	計	1,655	25	6,880	
<b>山形大学大学院</b>				<b>山形大学大学院</b>				
社会文化創造研究科				社会文化創造研究科				
社会文化創造専攻(M)	24	—	48	社会文化創造専攻(M)	24	—	48	
医学系研究科				医学系研究科				
医学専攻(4年制D)	26	—	104	医学専攻(4年制D)	26	—	104	
看護学専攻(M)	10	—	20	看護学専攻(M)	10	—	20	
先進的医科学専攻(M)	6	—	12	先進的医科学専攻(M)	6	—	12	
看護学専攻(D)	3	—	9	看護学専攻(D)	3	—	9	
先進的医科学専攻(D)	4	—	12	先進的医科学専攻(D)	4	—	12	
理工学研究科				理工学研究科				
理学専攻(M)	53	—	106	理学専攻(M)	<u>47</u>	—	<u>94</u>	定員変更(Δ6)
機械システム工学専攻(M)	63	—	126	機械システム工学専攻(M)	63	—	126	
化学・バイオ工学専攻(M)	67	—	134	化学・バイオ工学専攻(M)	67	—	134	
情報・エレクトロニクス専攻(M)	62	—	124	情報・エレクトロニクス専攻(M)	<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和7年4月学生募集停止
				<b>数理情報システム専攻(M)</b>	<u>88</u>	—	<u>176</u>	専攻の設置(事前相談)
建築・デザイン・マネジメント専攻(M)	12	—	24	建築・デザイン・マネジメント専攻(M)	12	—	24	
地球共生圏科学専攻(D)	5	—	15	地球共生圏科学専攻(D)	5	—	15	
先進工学専攻(D)	16	—	48	先進工学専攻(D)	16	—	48	
有機材料システム研究科				有機材料システム研究科				
有機材料システム専攻(M)	98	—	196	有機材料システム専攻(M)	98	—	196	
有機材料システム専攻(D)	10	—	30	有機材料システム専攻(D)	10	—	30	
農学研究科				農学研究科				
農学専攻(M)	38	—	76	農学専攻(M)	38	—	76	
教育実践研究科				教育実践研究科				
教職実践専攻(P)	20	—	40	教職実践専攻(P)	20	—	40	
計	517	—	1,124	計	537	—	1,164	

### 設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行終了時における状況								
学部等の名称	授与する学位等		異動先	基幹教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	基幹教員			
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		
					社会共創デジタル学環		学士(社会共創学)		経済学関係理学関係		人文社会科学部人文社会科学科(兼務)	2	1
											人文社会科学部人文社会科学科	1	1
											地域教育文化学部地域教育文化学科(兼務)	4	3
											理学部理学科(兼務)	3	3
											法人本部	2	1
											計	12	9
人文社会科学部 人文社会科学科	学士(文学) 学士(学術) 学士(法学) 学士(政策科学) 学士(経済学)	文学関係 法学関係 経済学関係	人文社会科学部人文社会科学科	60	32	人文社会科学部 人文社会科学科	学士(文学) 学士(学術) 学士(法学) 学士(政策科学) 学士(経済学)	文学関係 法学関係 経済学関係	人文社会科学部人文社会科学科	60	32		
			社会共創デジタル学環(兼務)	3	2				社会共創デジタル学環(兼務)	2	1		
			退職	11	9								
			計	74	43				計	62	33		
地域教育文化学部 地域教育文化学科	学士(教育学) 学士(学術)	教育学・保育学関係 音楽関係 美術関係 体育学関係 家政学関係	地域教育文化学部地域教育文化学科	54	19	地域教育文化学部 地域教育文化学科	学士(教育学) 学士(学術)	教育学・保育学関係 音楽関係 美術関係 体育学関係 家政学関係	地域教育文化学部地域教育文化学科	54	19		
			社会共創デジタル学環(兼務)	4	3				社会共創デジタル学環(兼務)	4	3		
			退職	14	12								
			計	72	34				計	58	22		
理学部 理学科	学士(理学)	理学関係	理学部理学科	63	31	理学部 理学科	学士(理学)	理学関係	理学部理学科	63	31		
			社会共創デジタル学環(兼務)	3	3				社会共創デジタル学環(兼務)	3	3		
			退職	7	5								
			計	73	39				計	66	34		

## 基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
(人文社会科学部)			
平成29年4月	人文社会科学部人文社会科学科 設置	文学、法学、経済学	設置届出(学部)
(地域教育文化学部)			
平成17年4月	地域教育文化学部地域教育学科、文化創造学科及び生活総合学科 設置	教育学・保育学、音楽、美術、体育学、家政学	設置認可(学部)
平成24年4月	地域教育文化学部地域教育文化学科 設置	教育学・保育学、音楽、美術、体育学、家政学	設置届出(学科)
平成24年4月	地域教育文化学部地域教育学科、文化創造学科及び生活総合学科の学生募集停止	教育学・保育学、音楽、美術、体育学、家政学	学生募集停止(学科)
(理学部)			
昭和42年6月	理学部数学科、物理学科、化学科及び生物学科 設置	理学	設置認可(学部)
昭和42年7月	理学部地球環境学科 設置	理学	設置認可(学科)
平成29年4月	理学部理学科 設置	理学	設置届出(学科)
平成29年4月	理学部数理科学科、物理学科、物質生命化学科、生物学科及び地球環境学科の学生募集停止	理学	学生募集停止(学科)
(社会共創デジタル学環)			
令和7年4月	社会共創デジタル学環 設置	経済学、理学	設置届出(学部等連係課程実施基本組織)

教育課程等の概要																	
(社会共創デジタル学環)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員	
基盤共通教育科目	導入科目	スタートアップセミナー	1前		2				○						2		
		みずから学ぶ ライティングスキル	1前 1前・後		2 2				○ ○						1 2		
		学部導入セミナー	1前 1後	○ ○	2 2				○ ○		9 9	3 3					共同 共同
	基幹科目	人間・共生を考える	1前・後		2				○						32		
		山形から考える	1前・後		2				○						26		
		現代を生きる	1前		2				○						1		
	教養科目	文化と社会	哲学	1前・後		2				○						1	
			心理学	1前		2				○						1	
			歴史学	1前・後		2				○						7	
			文学	1前・後		2				○						2	
芸術			1前・後		2				○						1		
言語学			1前・後		2				○						3		
文化論			1前・後		2				○						8		
法学			1前・後		2				○						5		
経済学			1前・後		2				○						5		
政治学			1前・後		2				○						2		
社会学	1前・後		2				○						3				
日本国憲法	1前・後		2				○						3				
自然と科学	数理学	1前・後		2				○						6			
	物理学	1前・後		2				○		○				7			
	化学	1前・後		2				○		○				7			
	生物科学	1前・後		2				○		○				3			
	地球科学	1前・後		2				○		○				1			
応用と学際	応用	1前・後		2				○		○				6			
	学際	1後		2				○		○				12			
共通科目	コミュニケーション・スキル1	英語1	1前・後		4				○						5		
		ドイツ語	1前・後		1				○						4		
	コミュニケーション・スキル2	フランス語	1前・後		1				○						3		
		中国語	1前・後		1				○						3		
	情報科学	情報処理	1前		2				○						1		
		データサイエンス（基礎） データサイエンス（応用）	1前 1後		2 2				○ ○			1 1					
	健康・スポーツ	健康・スポーツ科学	1前・後		2				○						2		
スポーツ実技 スポーツセミナー		1前・後 1前		1 2				○		○		1		6 3			
キャリアデザイン	キャリアデザイン	1前・後		2				○						3			
小計（38科目）		—	—	20	54	0		—			9	3	0	0	0	112	

専門 教育科目	共創 理論 科目	共創デジタルソリューションⅠ	1前	○	2			○		9	3					共同	
		共創デジタルソリューションⅡ	1後	○	2			○		9	3					共同	
		共創デジタルソリューションⅢ	2前	○	2			○		9	3					共同	
		共創デジタルソリューションⅣ	2後	○	2			○		9	3					共同	
		共創アントレプレナーシップⅠ	1前	○	2			○		9	3					共同	
		共創アントレプレナーシップⅡ	1後	○	2			○		9	3					共同	
		共創アントレプレナーシップⅢ	2前	○	2			○		9	3					共同	
		共創アントレプレナーシップⅣ	2後	○	2			○		9	3					共同	
		小計(8科目)	—	—	16	0	0	—		9	3	0	0	0	0		
共創 実践 科目	共創実践演習Ⅰ	1前	○	4			○		9	3					共同		
	共創実践演習Ⅱ	1後	○	4			○		9	3					共同		
	共創実践演習Ⅲ	2前	○	4			○		9	3					共同		
	共創実践演習Ⅳ	2後	○	4			○		9	3					共同		
	共創実践研究Ⅰ	3前	○	5			○		9	3					共同		
	共創実践研究Ⅱ	3後	○	5			○		9	3					共同		
	共創実践研究Ⅲ	4前	○	5			○		9	3					共同		
	共創実践研究Ⅳ	4後	○	5			○		9	3					共同		
	小計(8科目)	—	—	36	0	0	—		9	3	0	0	0	0			
共創 専門 科目	経済	ミクロ経済学概論1	2前		2		○		2								
		ミクロ経済学概論2	2後		2		○		2								
		マクロ経済学概論1	2前		2					2							
		マクロ経済学概論2	2後		2		○		2								
		経営学概論	2前		2		○		2								
		経済学説史概論	2後		2		○		2								
		統計学1	2~4前		2		○								1		
		統計学2	2~4後		2		○								1		
		会計学1	2~4前		2		○								1		
		会計学2	2~4後		2		○								1		
		計量経済学1	3・4前		2		○								1		
		計量経済学2	3・4後		2		○								1		
		公共経済学	3・4前		2		○			1							
		地方財政論a	3・4前		2		○								1		
	環境経済学1	3・4前		2		○								1			
	環境経済学2	3・4後		2		○								1			
	マーケティングa	3・4前		2		○								1			
	マーケティングb	3・4後		2		○								1			
	中小企業論a	3・4前		2		○								1			
	中小企業論b	3・4後		2		○								1			
ミクロ経済学3	3・4前		2		○			1									
マクロ経済学3	3・4前		2		○								1				
公共 政策	地域政策論1	2~4前		2		○				1							
	地域政策論2	2~4後		2		○				1							
	行政学a	2~4前		2		○								1			
	行政学b	2~4後		2		○								1			
	地域防災論	2~4後		2		○								1			
	自治体経営	2~4後		2		○								1			
	地域社会学	2~4前		2		○								1			
	社会学概論	2~4後		2		○								1			
	調査方法論	2~4後		2		○								1			
	社会統計学	2~4後		2		○								1			
	家族社会学	2~4後		2		○								1			
	地理情報システム	3・4後		2		○				1							
	公共政策学1	3・4前		2		○								1			
	公共政策学2	3・4後		2		○								1			
市民社会論	3・4前		2		○								1				
自然 と 科学	自然共創科学Ⅰ(生物学)	2前		2		○				1							
	自然共創科学Ⅰ(化学・エネルギー)	2前		2		○			2								
	自然共創科学Ⅱ(生物学)	2後		2		○				1							
	自然共創科学Ⅱ(化学・エネルギー)	2後		2		○			2								
	自然共創科学Ⅲ(総合)	2後		2		○			1	1				1			
	データサイエンスⅠ	2~4前		2		○			1					1			
	数学Ⅰ	2~4前		2		○								2			
	物理学Ⅰ	2~4前		2		○								1			
	化学Ⅰ	2~4前		2		○								2			
	生物学Ⅰ	2~4前		2		○								2			
	地球科学Ⅰ	2~4前		2		○								3			

	データサイエンスⅡ	2～4後			2		○											1		
	数学Ⅱ	2～4後			2		○												2	
	物理学Ⅱ	2～4後			2		○												1	
	化学Ⅱ	2～4後			2		○				1									
	生物学Ⅱ	2～4後			2		○												3	
	地球科学Ⅱ	2～4後			2		○												1	
	数学Ⅲ	2～4後			2		○												2	
共創学 際科目	日本中近世史概論	2前・後			2		○												1	
	日本近代史概論	2前・後			2		○												1	
	立体造形文化論	2～4後			2		○				1									
	彫刻論	2前・後			2		○				1									
	文化人類学概論a	2～4前			2		○												3	
	文化人類学概論b	2～4後			2		○												1	
	情報科学概論	2～4前			2		○												1	
	人間情報科学概論	2～4前			2		○												1	
	表象文化概論	2～4前			2		○												1	
	文化人類学基礎演習a	2～4前			2			○											1	
	文化人類学基礎演習b	3・4後			2			○	○										2	
	内陸アジア史概論	2前・後			2			○											1	
	地域アーカイブズ学基礎演習	2前・後			2				○										1	
	地域アーカイブズ学特殊講義	3前・後			2			○											1	
	地域アーカイブズ学演習	3前・後			2				○	○									1	
	課題演習（歴史文化実習）	3前・後			2				○	○									4	
	課題演習（地域アーカイブズ学）	3前・後			2				○	○									3	
	ライフステージと食	2～4前			2			○											1	
	食文化論	2～4後			2			○				1								
	食と健康	2～4後			2			○											1	
	栄養学概論	2～4前			2			○											1	
	調理と食生活設計	2～4前			2			○											1	
	地域食育実習	3・4前			2				○			1								
	心理学概論	2～4前			2			○											2	
	心理学統計法	2～4後			2			○											1	
	認知心理学	2～4前			2			○											1	
	産業・組織心理学	2～4前			2			○											1	
	ライフステージとスポーツ	2～4後			2			○											1	
	スポーツマネジメント	3・4後			2			○											1	
	地域スポーツにおけるコーチング学	2前・後			2			○				1								
	スポーツ医科学	2～4後			2			○				1								
	共創インターンシップ（国内）	3・4前			2				○										1	標準外
	共創インターンシップ（国外）	3・4後			2				○				1							標準外
	小計（88科目）	—	—	0	176	0	—			9	3	0	0	0	0	0	0	50		
	合計（142科目）	—	—	72	230	0	—			9	3	0	0	0	0	0	0	138		

学位又は称号	学士（社会共創学）	学位又は学科の分野	経済学関係、理学関係
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
以下の要件を満たし合わせて124単位以上を修得すること。 (ア) 基盤共通教育科目：30単位 ①導入科目：8単位 ②基幹科目：6単位 ③教養科目：8単位 ④共通科目：8単位  (イ) 専門教育科目：94単位 ①共創理論科目：16単位 ②共創実践科目：36単位 ③共創専門科目：34単位 ④共創展開科目：8単位		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業の標準時間	90分

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校等の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
  - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
  - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校等の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																					
(連係協力学部：人文社会科学部人文社会科学科)																					
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考						
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員					
基盤共通教育科目	導入科目	スタートアップセミナー	1前		2					○			2								
		みずから学ぶ	1前		2					○				1							
		ライティングスキル	1前・後			2					○									2	
	基幹科目	人間・共生を考える	1前・後		2						○		12	1	2					32	
		山形から考える	1前・後		2						○		3	2						12	
		現代を生きる	1前		2						○									1	
	教養科目	文化と社会	哲学	1前・後		2					○		1								
			心理学	1前		2					○										1
			歴史学	1前・後		2						○			1	2					4
			文学	1前・後		2						○									2
			芸術	1前・後		2						○		1							
			言語学	1前・後		2						○		2							1
			文化論	1前・後		2						○		1	2						5
			法学	1前・後		2						○		4		1					
			経済学	1前・後		2						○		3	2						
			政治学	1前・後		2						○		2							
	自然と科学	数理科学	数学	1前・後		2					○										6
			物理学	1前・後		2					○										7
			化学	1前・後		2					○										7
			生物科学	1前・後		2					○										3
			地球科学	1前・後		2					○										1
	応用と学際	応用	学際	1前・後		2					○			1							5
			学際	1後		2					○			1							11
共通科目	コミュニケーション・スキル1	英語1	1前・後		2					○										5	
		コミュニケーション・スキル2	ドイツ語	1前・後		1					○		2	1							1
			フランス語	1前・後		1						○		3							
	情報科学	中国語	1前・後		1						○		2	1							
		情報処理	データサイエンス(基礎)	1前		2					○										1
			データサイエンス(応用)	1前		2					○										1
健康・スポーツ	健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学	1前・後		2					○										3	
		スポーツ実技	1前・後		1						○									7	
		スポーツセミナー	1前・後		2						○									3	
キャリアデザイン	1前・後		2						○										3		
小計(36科目)		—	—	14	54	0				—		28	14	6	0	0			70		
専門教育科目	人間文化コース	専門導入科目	1前	○	2					○			1								
		日本社会論(日本学入門)	1後	○	2					○		3									
		日本語文化論(日本学入門)	1前	○	2					○		1	1	1							
		日本歴史文化論(日本学入門)	1後	○	2					○		1									
人間文化入門総合講義	1後	○	2					○		1											



専門展 開科目	文化人類学特殊講義b	3後	○	2	○	1	1					
	アンデス考古学特殊講義 a	3前	○	2	○	2	1					
	アンデス考古学特殊講義b	3前	○	2	○	2	1					
	環境動態論特殊講義a	3後	○	2	○					1		
	日本古代史特殊講義a	3前	○	2	○					1		
	日本古代史特殊講義b	3前	○	2	○					1		
	東アジア史特殊講義a	3前	○	2	○		1					
	東アジア史特殊講義b	3前	○	2	○		1					
	内陸アジア史特殊講義b	3後	○	2	○		1					
	ヨーロッパ史特殊講義a	3前	○	2	○	1						
	人間情報科学特殊講義	3後	○	2	○	1						
	認知心理学特殊講義	3後	○	2	○		1					
	行動科学特殊講義	3後	○	2	○		1					
	日本古代中世文学特殊講義a	3後	○	2	○							
	日本古代中世文学特殊講義b	3後	○	2	○				1			
	日本近現代文学特殊講義a	3後	○	2	○	1						
	日本近現代文学特殊講義b	3後	○	2	○						1	
	日欧比較文学特殊講義a	3後	○	2	○	1						
	日欧比較文学特殊講義b	3後	○	2	○	1						
	日本語文法特殊講義a	3前	○	2	○	1						
	日本語文法特殊講義b	3前	○	2	○	1						
	日本語学特殊講義a	3後	○	2	○	1						
	日本語学特殊講義b	3後	○	2	○	1						
	日本語教育学特殊講義a	3後	○	2	○						1	
	日本語教育学特殊講義b	3後	○	2	○						1	
	美術史特殊講義a	3前	○	2	○	1						
	美術史特殊講義b	3前	○	2	○						1	
	芸術文化特殊講義a	3後	○	2	○	1						
	芸術文化特殊講義b	3後	○	2	○	1						
	表象文化特殊講義a	3後	○	2	○		1					
	表象文化特殊講義b	3後	○	2	○		1					
	哲学特殊講義	3後	○	2	○	1						
	倫理学特殊講義	3後	○	2	○						1	
	記号論特殊講義	3後	○	2	○	1						
	文化人類学演習a	3前	○	2	○	2	1					
	文化人類学演習b	3後	○	2	○	2	1					
	アンデス考古学演習a	3前	○	2	○	2	1					
	アンデス考古学演習b	3後	○	2	○	1	1	1				
	環境動態論演習	3前	○	2	○					1		
	日本古代史演習	3通	○	2	○					1		
	日本中近世史演習	3通	○	2	○						1	
	日本近代史演習	3通	○	2	○		1					
	アジア史演習a	3通	○	2	○		1					
	アジア史演習b	3通	○	2	○	1						
	専門英語演習（歴史学） a	3後	○	2	○	1						
	専門英語演習（歴史学） b	3前	○	2	○	1						
	日本考古学演習	3通	○	2	○						1	
	人間情報科学演習	3後	○	2	○	1						
	認知心理学演習	3通	○	2	○		1					
	情報処理実習	3後	○	2	○	1	2					
	心理学特殊実験	3後	○	2	○	1	2					

		行動科学演習	3後	○	2		○		1					
		日本古代中世文学演習	3通	○	2		○		1					
		日本近現代文学演習	3通	○	2		○	1						
		日欧比較文学演習	3通	○	2		○	1						
		日本語学演習a	3前	○	2		○	1						
		日本語文法演習	3通	○	2		○	1						
		日本語教育学演習	3後	○	2		○						1	
		異文化理解演習	3前	○	2		○						1	
		中国文学文化演習	3前	○	2		○			1				
		漢文学教育演習	3後	○	2		○						1	
		専門英語演習 (Japanese Studies)	3前	○	2		○	1	1					
		芸術文化演習a	3前	○	2		○	1						
		芸術文化演習b	3後	○	2		○	1						
		美術史演習	3後	○	2		○						1	
		現代社会論演習	3通	○	2		○							
		表象文化演習	3後	○	2		○		1					
		哲学演習	3通	○	2		○	1						
		倫理学演習	3後	○	2		○						1	
		専門英語演習 (哲学)	3後	○	2		○	1						
		課題演習 (文化人類学)	3後	○	2		○		1					
		課題演習 (環境動態論)	3後	○	2		○			1				
		課題演習 (国語科教育)	4前	○	2		○						1	
		課題演習 (地域歴史史料)	3前	○	2		○		1	2				
		課題演習 (芸術文化)	3後	○	2		○	1					2	
		課題演習 (映像学)	3後	○	2		○		1					
		課題演習 (哲学)	3後	○	2		○	1						
	専門完成科目	卒業演習1	4前	○	2		○	10	7	3				
		卒業演習2	4後	○	2		○	10	7	3				
		卒業論文	4通	○	4		○	10	7	3				
グローバル・スタディーズコース	専門語学	専門基礎語学 (英語)	1後	○	2		○	1						
		英語コミュニケーション (中級)	2通	○	2		○	1					1	
		英語コミュニケーション (上級)	2通	○	2		○	2						
		英作文 (中級)	2前	○	2		○		1					
		英作文 (上級)	2後	○	2		○	1						
		実践英語a	2前	○	2		○		1					
		実践英語b	2後	○	2		○		1					
		実践英語c	2前	○	2		○	1						
		実践英語d	2後	○	2		○	1						
		実践英語e	2前	○	2		○		1					
		実践英語f	2後	○	2		○		1					
		e-learning	2通	○	2		○	1						
		e-learning (英語2)	2通	○	2		○	3						
		ドイツ語講読a	2前	○	2		○	1						
		ドイツ語講読b	2後	○	2		○	1						
		ドイツ語講読c	2前	○	2		○	1						
		ドイツ語講読d	2後	○	2		○	1						
		時事ドイツ語	2後	○	2		○		1					
		ドイツ語学演習	2前	○	2		○	1						
		ドイツ語会話・作文a	2前	○	2		○	1						
		ドイツ語会話・作文b	2後	○	2		○	1						
		フランス語講読a	2前	○	2		○		1					



	東アジア史概論	2後	○	2	○			1					
専門展開科目	現代中国論	3前	○	2	○			1					
	英米文化論	3後	○	2	○		1						
	ドイツ文化論	3前	○	2	○			1					
	フランス文化論	3前	○	2	○			1					
	ロシア文化論	3前	○	2	○		1						
	ヨーロッパ史特殊講義a	3前	○	2	○		1						
	比較憲法	3後	○	2	○		1						
	日本外交論1	3前	○	2	○		1						
	日本外交論2	3後	○	2	○		1						
	国際取引法1	3前	○	2	○		1						
	国際取引法2	3後	○	2	○		1						
	国際公共政策論	3前	○	2	○			1					
	市民社会論	3前	○	2	○		1						
	現代社会学	3前	○	2	○		1						
	環境経済学1	3前	○	2	○				1				
	環境経済学2	3後	○	2	○				1				
	英語学特殊講義a	3前	○	2	○		1						
	英語学特殊講義b	3後	○	2	○		1						
	言語学特殊講義a	3前	○	2	○		1						
	言語学特殊講義b	3後	○	2	○							1	
	日英対照言語学講義	3後	○	2	○		1						
	東アジア史特殊講義a	3前	○	2	○				1				
	東アジア史特殊講義b	3前	○	2	○				1				
	内陸アジア史特殊講義b	3後	○	2	○				1				
	日欧比較文学特殊講義a	3後	○	2	○		1						
	日欧比較文学特殊講義b	3後	○	2	○		1						
	Japanese Short Stories	3前	○	2	○								1
	Popular Japanese History	3前	○	2	○								1
	Japanese Popular Heroes	3後	○	2	○								1
	Literature on Screen: Great Writers as Great Films	3後	○	2	○								1
	アジア文化演習	3後	○	2		○		1					
	現代中国論演習	3後	○	2		○		1					
	ドイツ文化演習	3後	○	2		○		1					
	フランス文化演習	3後	○	2		○		1					
	ロシア文化演習	3後	○	2		○	1						
	英米文化演習	3後	○	2		○		1					
	東南アジア地域論演習	3後	○	2		○	2						
	国際協力論演習	3前	○	2		○	1						
	極東地域論演習	3後	○	2		○	1						
	アジア史演習a	3通	○	2		○		1					
アジア史演習b	3通	○	2		○	1							
日本近代史演習	3通	○	2		○	1							
国際法演習	3通	○	2		○	1							
グローバル・ガバナンス論演習	3通	○	2		○	1							
日本外交論演習	3通	○	2		○	1							
比較文化・文化交流史演習	3後	○	2		○	1							
中国文学文化演習	3前	○	2		○				1				
英米文学講読	3前	○	2		○	1							
言語学演習a	3前	○	2		○	1							
言語学演習b	3後	○	2		○	1							



	民法展開（債権総論）	3前	○		2		○		1						
	民法展開（担保物権）	3前	○		2		○		1						
	商法1	3前	○		2		○		1						
	商法2	3後	○		2		○		1						
	民事訴訟法1	3前	○		2		○		1						
	民事訴訟法2	3後	○		2		○		1						
	消費者法	3前	○		2		○				1				
	国際取引法1	3前	○		2		○		1						
	国際取引法2	3後	○		2		○		1						
	法哲学2	3前	○		2		○		1						
	競争法1	3前	○		2		○		1						
	競争法2	3後	○		2		○		1						
	知的財産法	3前	○		2		○		1						
専門展開科目・専門完成科目	憲法演習Ⅰ	3通	○		2		○		1						
	憲法演習Ⅱ	3通	○		2		○		1						
	行政法演習	3通	○		2		○		1						
	刑法演習	3通	○		2		○		1						
	刑事訴訟法演習	3通	○		2		○		1						
	民法演習Ⅰ	3通	○		2		○				1				
	民法演習Ⅱ	3通	○		2		○		1						
	商法演習	3通	○		2		○		1						
	国際法演習	3通	○		2		○		1						
	法哲学演習	3通	○		2		○		2						
	競争法演習	3通	○		2		○		1						
	消費者法演習	3通	○		2		○				1				
労働政策演習	3通	○		2		○				1					
専門完成科目	卒業論文	4後	○	4			○		9		3				
	グループ卒業論文	4後	○	2			○		9		3				
	卒業研究	4後	○	2			○		9		3				
横断的教育科目（基礎科目）	政治理論1	2前	○		2		○		1						
	政治理論2	2後	○		2		○		1						
	政治過程論1	2前	○		2		○				1				
	政治過程論2	2後	○		2		○				1				
	地域政策論1	2前	○		2		○				1				
	地域政策論2	2後	○		2		○			1					
	行政学a	2前	○		2		○		1						
	行政学b	2後	○		2		○		1						
	グローバル・ガバナンス論1	2前	○		2		○		1						
	グローバル・ガバナンス論2	2後	○		2		○		1						
	労働政策	2後	○		2		○				1				
	ミクロ経済学1	2前	○		2		○		1						
	ミクロ経済学2	2後	○		2		○		1						
	マクロ経済学1	2前	○		2		○		1						
	マクロ経済学2	2後	○		2		○		1						
	経済原論1	2前	○		2		○		1						
	経済原論2	2後	○		2		○		1						
	社会政策論1	2前	○		2		○				1				
	社会政策論2	2後	○		2		○				1				
	金融論a	2前	○		2		○		1						
金融論b	2後	○		2		○		1							
経営学a	2前	○		2		○				1					

	経営学b	2後	○		2	○			1									
	会計学1	2前	○		2	○		1										
	会計学2	2後	○		2	○		1										
横断的教育科目(展開科目)	公共政策学1	3前	○		2	○				1								
	公共政策学2	3後	○		2	○					1							
	市民社会論	3前	○		2	○		1										
	公共政策の経済思想	3後	○		2	○		1										
	現代社会学	3前	○		2	○		1										
	財政学a	3前	○		2	○		1										
	財政学b	3後	○		2	○		1										
	地方財政論a	3前	○		2	○		1										
	地方財政論b	3後	○		2	○		1										
	法律の経済分析	3前	○		2	○		1										
	社会制度と政策設計	3後	○		2	○		1										
	政策法務	3前	○		2	○		1										
社会科学英語演習	3通	○		2		○				1								
地域公共政策コース	総合講座Ⅰ	1前	○		2	○		1										
	政治学入門	1後	○		2	○				1								
	総合講座Ⅱ	1前	○		2	○		1										
	法と裁判	1後	○		2	○		1										
	総合講座Ⅲ	1前	○		2	○				1								
	経済思想	1後	○		2	○		1										
専門基礎科目	専門基礎演習	2前	○	2		○		1										
	政治理論1	2前	○		2	○		1										
	政治理論2	2後	○		2	○		1										
	政治過程論1	2前	○		2	○					1							
	政治過程論2	2後	○		2	○					1							
	地域政策論1	2前	○		2	○				1								
	地域政策論2	2後	○		2	○				1								
	行政学a	2前	○		2	○		1										
	行政学b	2後	○		2	○		1										
	グローバル・ガバナンス論1	2前	○		2	○		1										
	グローバル・ガバナンス論2	2後	○		2	○		1										
	自治体経営	2後	○		2	○		1										
	財務・金融行政と地域社会	2後	○		2	○		2										
	社会学概論	2後	○		2	○										1		
	人文地理学概論	2前	○		2	○		1										
	地誌学	2後	○		2	○		1										
	地域社会学	2前	○		2	○		1										
	調査方法論	2後	○		2	○		1										
	社会統計学	2後	○		2	○		1										
労働政策	2後	○		2	○				1									
専門展開科目	公共政策学1	3前	○		2	○					1							
	公共政策学2	3後	○		2	○						1						
	日本外交論1	3前	○		2	○		1										
	日本外交論2	3後	○		2	○		1										
	国際公共政策論	3前	○		2	○		1										
	市民社会論	3前	○		2	○		1										
	公共政策の経済思想	3後	○		2	○		1										
	現代社会学	3前	○		2	○		1										
家族社会学	3前	○		2	○											1		

	地域構造論	3前	○		2		○			1								
	観光学	3後	○		2		○			1								
	地理情報システム	3後	○		2		○				1							
専門展開科目・専門完成科目	グローバル・ガバナンス論演習	3通	○		2		○			1								
	行政学演習	3通	○		2		○									1		
	日本外交論演習	3通	○		2		○			1								
	公共政策学演習	3通	○		2		○						1					
	地域政策論演習	3通	○		2		○				1							
	経済学史演習	3通	○		2		○			1								
	地域構造論演習	3通	○		2		○			1								
	現代社会学演習	3通	○		2		○			1								
	労働政策演習	3通	○		2		○							1				
	行政法演習	3通	○		2		○				1							
	財政学演習	3通	○		2		○			1								
	環境経済学演習	3通	○		2		○							1				
社会政策論演習	3通	○		2		○							1					
専門完成科目	卒業論文	4後	○	4			○			5	1	2						
	グループ卒業論文	4後	○	2			○			5	1	2						
	卒業研究	4後	○	2			○			5	1	2						
横断的教育科目(基礎科目)	ミクロ経済学1	2前	○		2		○			1								
	ミクロ経済学2	2後	○		2		○			1								
	マクロ経済学1	2前	○		2		○			1								
	マクロ経済学2	2後	○		2		○			1								
	経済原論1	2前	○		2		○			1								
	経済原論2	2後	○		2		○			1								
	経済学史a	2前	○		2		○			1								
	経済学史b	2後	○		2		○			1								
	統計学1	2前	○		2		○			1								
	統計学2	2後	○		2		○			1								
	社会政策論1	2前	○		2		○							1				
	社会政策論2	2後	○		2		○							1				
	金融論a	2前	○		2		○			1								
	金融論b	2後	○		2		○			1								
	国際経済学a	2前	○		2		○						1					
	国際経済学b	2後	○		2		○						1					
	労働と生活	2後	○		2		○			1								
	経営学a	2前	○		2		○							1				
	経営学b	2後	○		2		○							1				
	会計学1	2前	○		2		○			1								
	会計学2	2後	○		2		○			1								
	財務会計a	2後	○		2		○			1								
	憲法1	2前	○		2		○			1								
	憲法2	2後	○		2		○			1								
	行政法1	2後	○		2		○			1								
	刑事法基礎1	2前	○		2		○			1								
	刑事法基礎2	2前	○		2		○			1								
	刑法1	2前	○		2		○			1								
	刑法2	2後	○		2		○			1								
	私法入門	2前	○		2		○			1								
金融法入門	2前	○		2		○			1									
民法基礎(総則)	2前	○		2		○			1									

	民法基礎（物権）	2後	○	2	○				1			
	民法基礎（契約法）	2前	○	2	○				1			
	民法基礎（不法行為法）	2後	○	2	○				1			
	国際法1	2前	○	2			1					
	国際法2	2後	○	2	○		1					
	国際組織法	2後	○	2	○		1					
	国際人権法	2後	○	2	○		1					
	法哲学1	2後	○	2	○		1					
	労働法1	2前	○	2	○			1				
	労働法2	2後	○	2	○			1				
	環境動態概論	2前	○	2	○				1			
横断的 教育科 目（展 開科 目）	ゲーム理論1	3前	○	2	○		1					
	ゲーム理論2	3後	○	2	○		1					
	計量経済学1	3前	○	2	○		1					
	計量経済学2	3後	○	2	○		1					
	ミクロ経済学3	3前	○	2	○		1					
	労働経済学	3後	○	2	○				1			
	財政学a	3前	○	2	○		1					
	財政学b	3後	○	2	○		1					
	地方財政論a	3前	○	2	○		1					
	地方財政論b	3後	○	2	○		1					
	環境経済学1	3前	○	2	○					1		
	環境経済学2	3後	○	2	○					1		
	公共経済学	3後	○	2	○		1					
	産業組織論	3後	○	2	○		1					
	マーケティングa	3前	○	2	○		1					
	マーケティングb	3後	○	2	○		1					
	財務会計b	3前	○	2	○		1					
	管理会計a	3前	○	2	○		1					
	管理会計b	3後	○	2	○		1					
	中小企業論a	3前	○	2	○				1			
	中小企業論b	3後	○	2	○				1			
	憲法3	3前	○	2	○		1					
	憲法4	3後	○	2	○		1					
	行政法2	3前	○	2	○		1					
	行政法3	3後	○	2	○		1					
	行政法4	3前	○	2	○		1					
	刑法3	3前	○	2	○		1					
	刑法4	3後	○	2	○		1					
	刑事政策	3前	○	2	○		1					
	民法展開（債権総論）	3前	○	2	○		1					
	民法展開（担保物権）	3後	○	2	○		1					
	国際取引法1	3前	○	2	○		1					
	国際取引法2	3後	○	2	○		1					
	法哲学2	3前	○	2	○		1					
	競争法1	3前	○	2	○		1					
	競争法2	3後	○	2	○		1					
知的財産法	3前	○	2	○		1						
環境動態論特殊講義a	3後	○	2	○					1			
法律の経済分析	3前	○	2	○		1						
社会制度と政策設計	3後	○	2	○		1						

	政策法務	3前	○		2	○		1						
	社会科学英語演習	3通	○		2		○		1		1			
経済・マネジメントコース	専門導入科目	総合講座Ⅰ	1前	○		2	○		1					
		政治学入門	1後	○		2	○				1			
		総合講座Ⅱ	1前	○		2	○		1					
		法と裁判	1後	○		2	○		1					
		総合講座Ⅲ	1前	○		2	○				1			
		経済思想	1後	○		2	○		1					
専門基礎科目	専門基礎演習	2前	○	2			○				1			
	ミクロ経済学1	2前	○		2	○		1						
	ミクロ経済学2	2後	○		2	○		1						
	マクロ経済学1	2前	○		2	○		1						
	マクロ経済学2	2後	○		2	○		1						
	経済原論1	2前	○		2	○		1						
	経済原論2	2後	○		2	○		1						
	経済学史a	2前	○		2	○		1						
	経済学史b	2後	○		2	○		1						
	日本経済史1	2前	○		2	○		1						
	日本経済史2	2後	○		2	○		1						
	グローバル経済史1	2前	○		2	○		1						
	グローバル経済史2	2後	○		2	○		1						
	統計学1	2前	○		2	○		1						
	統計学2	2後	○		2	○		1						
	経済数学a	2後	○		2	○					1			
	経済情報科学1	2後	○		2	○					1			
	社会政策論1	2前	○		2	○						1		
	社会政策論2	2後	○		2	○						1		
	金融論a	2前	○		2	○		1						
	金融論b	2後	○		2	○		1						
	国際経済学a	2前	○		2	○					1			
	国際経済学b	2後	○		2	○					1			
地域科学	2後	○		2	○					1				
労働と生活	2後	○		2	○		1							
経営学a	2前	○		2	○					1				
経営学b	2後	○		2	○					1				
会計学1	2前	○		2	○		1							
会計学2	2後	○		2	○		1							
財務会計a	2後	○		2	○		1							
オペレーションズ・リサーチ	2前	○		2	○					1				
専門展開科目	ゲーム理論1	3前	○		2	○		1						
	ゲーム理論2	3後	○		2	○		1						
	計量経済学1	3前	○		2	○		1						
	計量経済学2	3後	○		2	○		1						
	ミクロ経済学3	3前	○		2	○		1						
	マクロ経済学3	3前	○		2	○		1						
	経済数学b	3前	○		2	○		1						
	経済情報科学2	3前	○		2	○					1			
	労働経済学	3前	○		2	○						1		
	財政学a	3前	○		2	○		1						
	財政学b	3後	○		2	○		1						
	地方財政論a	3前	○		2	○		1						

	地方財政論b	3後	○	2	○	1								
	国際金融論a	3前	○	2	○	1								
	国際金融論b	3後	○	2	○	1								
	環境経済学1	3前	○	2	○					1				
	環境経済学2	3後	○	2	○					1				
	公共経済学	3後	○	2	○	1								
	産業組織論	3後	○	2	○	1								
	経済・経営特殊講義	3前	○	2	○								1	
	経営情報a	3前	○	2	○				1					
	経営情報b	3後	○	2	○				1					
	マーケティングa	3前	○	2	○	1								
	マーケティングb	3後	○	2	○	1								
	中小企業論a	3前	○	2	○					1				
	中小企業論b	3後	○	2	○					1				
	財務会計b	3前	○	2	○	1								
	管理会計a	3前	○	2	○	1								
	管理会計b	3後	○	2	○	1								
	生産管理	3前	○	2	○				1					
専門展開科目・専門完成科目	ミクロ経済学演習	3通	○	2	○	1								
	マクロ経済学演習	3通	○	2	○	1								
	経済原論演習	3通	○	2	○	1								
	意思決定論演習	3通	○	2	○	1								
	経済学史演習	3通	○	2	○	1								
	日本経済史演習	3通	○	2	○								1	
	グローバル経済史演習	3通	○	2	○								1	
	統計学演習	3通	○	2	○	1								
	経済情報科学演習	3通	○	2	○				1					
	地域政策論演習	3通	○	2	○				1					
	財政学演習	3通	○	2	○	1								
	社会政策論演習	3通	○	2	○						1			
	環境経済学演習	3通	○	2	○						1			
	国際経済学演習	3通	○	2	○					1				
	国際金融論演習	3通	○	2	○	1								
	会計学演習	3通	○	2	○	1								
	中小企業論演習	3通	○	2	○					1				
	経営情報演習	3通	○	2	○				1					
	マーケティング演習	3通	○	2	○	1								
	管理会計演習	3通	○	2	○	1								
専門完成科目	卒業論文	4後	○	4	○	8	4	1						
	グループ卒業論文	4後	○	2	○	8	4	1						
	卒業研究	4後	○	2	○	8	4	1						
横断的教育科目(基礎科目)	憲法1	2前	○	2	○	1								
	憲法2	2後	○	2	○	1								
	行政法1	2前	○	2	○	1								
	刑事法基礎1	2前	○	2	○	1								
	刑事法基礎2	2前	○	2	○	1								
	民法基礎(契約法)	2前	○	2	○						1			
	民法基礎(不法行為法)	2後	○	2	○						1			
	私法入門	2前	○	2	○	1								
	金融法入門	2前	○	2	○	1								
	会社法1	2前	○	2	○	1								

	会社法2	2後	○	2	○		1							
	労働法1	2前	○	2	○			1						
	労働法2	2後	○	2	○			1						
	地域政策論1	2前	○	2	○			1						
	地域政策論2	2後	○	2	○			1						
	政治理論1	2前	○	2	○		1							
	政治理論2	2後	○	2	○		1							
	政治過程論1	2後	○	2	○				1					
	政治過程論2	2前	○	2	○				1					
	行政学a	2前	○	2	○								1	
	行政学b	2後	○	2	○								1	
	グローバル・ガバナンス論1	2前	○	2	○		1							
	グローバル・ガバナンス論2	2後	○	2	○		1							
	財務・金融行政と地域社会	2後	○	2	○		2							
横断的教育科目(展開科目)	法律の経済分析	3前	○	2	○		1							
	社会制度と政策設計	3後	○	2	○		1							
	政策法務	3前	○	2	○		1							
	行政法2	3後	○	2	○		1							
	国際取引法1	3前	○	2	○		1							
	国際取引法2	3後	○	2	○		1							
	競争法1	3前	○	2	○								1	
	競争法2	3後	○	2	○								1	
	公共政策学1	3後	○	2	○					1				
	社会科学英語演習	3通	○	2		○				1				
学部共通科目	キャリアア科目	2前	○	2	○		1							
	キャリア形成論	2通	○	2	○		1							
	キャリア形成論演習	2後	○	2		○	1							
	インターンシップ	2通	○	2		○							1	
	地域社会論	2前	○	2	○			1						
ジェネリックスキル科目	統計学基礎	2後	○	2		○	2							
	社会調査法基礎	2通	○	2		○	1							
	データ処理演習	2前	○	2		○	1							
実践科目	課題演習(地域情報)	3前	○	2		○	1	2						
	課題演習(日本語教育)	3後	○	2		○	1						2	
	課題演習(書物文化環境)	3後	○	2		○	1							
	課題演習(歴史文化実習)	3後	○	2		○	1	1	1					
	グローバル・プロブレマティック基礎演習a	2前	○	2		○		1						
	グローバル・プロブレマティック基礎演習b	2前	○	2		○		1						
	グローバル・プロブレマティック基礎演習c	2後	○	2		○		1						
	グローバル・プロブレマティック基礎演習d	2後	○	2		○	1							
	グローバル・プロブレマティック基礎演習e	2前	○	2		○		1						
	グローバル・プロブレマティック基礎演習f	2後	○	2		○		1		1				
	異文化間コミュニケーション1	1通	○	2・4			○	1						
	異文化間コミュニケーション2	1通	○	2・4			○	1						
	異文化間コミュニケーション3	1通	○	2・4			○	1						
	法務実践演習b	3後	○	2			○	1						
	法務実践演習d	3前	○	2			○	1						
	法務実践演習e	3前	○	2			○	1						
	法務実践演習f	3後	○	2			○	1						
公共政策・地域課題実践演習A1	2前	○	2			○	1							
公共政策・地域課題実践演習A2	2前	○	2			○	1							

	公共政策・地域課題実践演習A3	2前	○		2		○	1								
	公共政策・地域課題実践演習A4	2後	○		2		○	1								
	公共政策・地域課題実践演習B1	3後	○		2		○		1							
	公共政策・地域課題実践演習B2	3前	○		2		○		1							
	公共政策・地域課題実践演習b3	3前	○		2		○	1								
	公共政策・地域課題実践演習B4	3前	○		2		○	1								
	企業課題解決型実践演習a	2前	○		2		○		1							
	企業課題解決型実践演習b	3後	○		2		○	1								
	ビジネス創業実践演習	3通	○		4		○	1								
	特別プログラム演習	3後	○		2		○	1								
その他	日本語a	2前	○		2	○		1								
	日本語b	2後	○		2	○		1								
	留学事前演習（ドイツ語）	1通	○		2	○		1								
	留学事前演習（フランス語）	1通	○		2	○			2							
	英語リーディング	1後			2	○		2	1							
	ロシア語初級 I	1前			2	○		2								
	ロシア語初級II	1後			2	○		1								
	入門ロシア語1	1前			2	○		1								
	入門ロシア語2	1後			2	○		1								
	ラテン語1	2前			2	○		1								
	ラテン語2	2後			2	○		1								
	スペイン語1	1前			2	○		1								
	スペイン語2	1後			2	○		1								
	生涯学習概論	2前			2	○		1								
	博物館概論	1前			2	○									1	
	博物館経営論	2後			2	○									1	
	博物館資料論	2前			2	○									1	
	博物館資料保存論	3前			2	○									1	
	博物館展示論	3後			2	○									1	
	博物館教育論	3前			2	○									1	
	博物館情報・メディア論	2後			2	○									1	
	小計（697科目）	—	—	52	1302 ~1308	42	—	43	20	11	0	0	11			
	合計（733科目）	—	—	66	1354 ~1360	42	—	43	20	11	0	0	70			
学位又は称号	学士（文学）、学士（学術）、学士（法学）、学士（政策科学）、学士（経済学）			学位又は学科の分野				文学関係、法学関係、経済学関係								

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
<p><b>【人間文化コース】</b> 以下の要件を満たし合わせて128単位以上を修得すること。 1. 基盤共通教育科目 38単位 2. 学部共通科目 8単位 3. 専門導入科目 8単位 4. 専門基礎科目 16単位 5. 専門展開科目 36単位 6. 自由科目 14単位 7. 専門完成科目 8単位</p> <p><b>【グローバル・スタディーズコース】</b> 以下の要件を満たし合わせて128単位以上を修得すること。 1. 基盤共通教育科目 40単位 2. 学部共通科目 14単位 3. 専門語学 14単位 3. 専門導入科目 4単位 4. 専門基礎科目 10単位 5. 専門展開科目 20単位 6. 自由科目 18単位 7. 専門完成科目 8単位</p> <p><b>【総合法律コース】</b> 以下の要件を満たし合わせて128単位以上を修得すること。 1. 基盤共通教育科目 38単位 2. 学部共通科目 8単位 3. 専門導入科目 8単位 4. 専門基礎科目・専門展開科目 60単位 5. 自由科目 8単位 6. 専門完成科目 6単位</p> <p><b>【地域公共政策コース】</b> 以下の要件を満たし合わせて128単位以上を修得すること。 1. 基盤共通教育科目 38単位 2. 学部共通科目 8単位 3. 専門導入科目 8単位 4. 専門基礎科目・専門展開科目 62単位 5. 自由科目 6単位 6. 専門完成科目 6単位</p> <p><b>【経済・マネジメントコース】</b> 以下の要件を満たし合わせて128単位以上を修得すること。 1. 基盤共通教育科目 38単位 2. 学部共通科目 8単位 3. 専門導入科目 8単位 4. 専門基礎科目・専門展開科目 62単位 5. 自由科目 6単位 6. 専門完成科目 6単位</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業の標準時間	90分

(注)

- 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
  - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
  - 「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要																		
(連係協力学部：地域教育文化学部地域教育文化学科)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く		
基盤共通教育科目	導入科目	スタートアップセミナー	1前		2							1	2			2		
		みずから学ぶ	1前		2			○								1		
		ライティングスキル	1前・後			2			○							2		
	基幹科目	人間・共生を考える	1前・後		2				○			1	1	1			29	
		山形から考える	1前・後		2				○				5	3			18	
		現代を生きる	1前		2				○								1	
	教養科目	文化と社会	哲学	1前・後			2			○								1
			心理学	1前			2			○				1				7
			歴史学	1前・後			2			○			1					1
			文学	1前・後			2			○								1
			芸術	1前・後			2			○								1
			言語学	1前・後			2			○				1				2
			文化論	1前・後			2			○								8
			法学	1前・後			2			○								5
			経済学	1前・後			2			○								5
			政治学	1前・後			2			○								2
	社会学	1前・後			2			○								3		
	日本国憲法	1前・後			2			○								3		
	自然と科学	数理科学	1前・後			2			○				1				5	
		物理学	1前・後			2			○		○						7	
化学		1前・後			2			○		○		1				6		
生物科学		1前・後			2			○		○		1				2		
地球科学		1前・後			2			○		○						1		
応用と学際	応用	1前・後			2			○		○		1	2			3		
	学際	1後			2			○		○			3			9		
共通科目	コミュニケーション・ス	英語1	1前・後		2			○								5		
		英語2	3前・3後			2			○				1					
		英語3	3前			2			○				1					
	コミュニケーション・ス	ドイツ語	1前・後			1			○				1				3	
		フランス語	1前・後			1			○								3	
	中国語	中国語	1前・後			1			○								3	
		情報科学	1前			2			○		○						1	
健康・スポーツ	データサイエンス（基礎）	1前			2			○		○						1		
	データサイエンス（応用）	1後			2			○								1		
	健康・スポーツ科学	1前・後			2			○			2	1	2					
キャリアデザイン	スポーツ実技	1前・後			1					○		2	2	3				
	スポーツセミナー	1前			2			○				2	1					
キャリアデザイン	キャリアデザイン	1前・後			2			○								3		
小計（38科目）		—	—	14	58	0	—	—	—	—	15	11	3	0	0	89		
児童教育コース	中心科目	男女共同参画社会と教育	2前			2			○									
		地域社会とファシリテーション	2後			2			○			2		1				
		教育原論	1前	○		2			○				1					
		音楽史概説	1前			2			○			1						
		発達心理学	1後	○		2			○			1	1					
		造形史概説	1後			2			○			1						
		特別支援教育総論	1後	○		2			○				1					
		学校・地域における食育	2前			2			○			1	2	1				
		生涯学習論	2後			2			○			1						
		生涯スポーツ学	1前			2			○			1						
		フィールドプロジェクトA（つながる）	3前・後	○		4					○		1	2	1			
		フィールドプロジェクトB（のこす）	3前・後	○		4					○		1	1				
		フィールドプロジェクトC（つくる）	3前・後	○		4					○		1	3				
フィールドプロジェクトD（ささえる）	3前・後	○		4					○		3	3	2					

	フィールドプロジェクトE (くらす)	3前・後	○		4		○		1	2					
	フィールドプロジェクトF (いかす)	3前・後	○		4		○			1					
基礎 科目	教職論	1前	○	2			○		1						
	教育方法・技術 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。)	2前	○	2			○			1					
	道徳教育の理論と実践	2後	○	2			○		1						
	学習心理学	2前			2		○		1						
	国語の基礎	1後			2		○				1				
	社会の基礎	1前			2		○		1						
	算数の基礎	2前			2		○			1					
	理科の基礎	2前			2		○		1	2					
	生活の基礎	1前			2		○			1					
	音楽の基礎	2前	○	2			○		3		1				
	図画工作の基礎	2前	○	2			○		1						
	体育の基礎	2前	○	2			○		1	1	1				
	家庭の基礎	2前			2		○		1	1					
	外国語の基礎	1後			2		○		1	1					
	初等教科教育法Ⅰ (国語)	2前	○	1				○				1			
	初等教科教育法Ⅰ (社会)	1後	○	1				○		1					
	初等教科教育法Ⅰ (算数)	1後	○	1				○			1				
	初等教科教育法Ⅰ (理科)	2後	○	1				○			1				
	初等教科教育法 (生活)	1後	○	2				○			1				
	初等教科教育法 (音楽)	2後	○	2				○		1					
	初等教科教育法 (図画工作)	2後	○	2				○				1			
	初等教科教育法 (体育)	2後	○	2				○		1		1			
	初等教科教育法 (家庭)	2後	○	2				○			1				
	初等教科教育法 (外国語)	2後	○	2				○		1	1				
	教育実践 (総合的な学習の時間)	2後	○	2				○		1					
	専門 科目	教育課程編成論	3前	○	2			○		1					
教材開発演習		3後			2		○		2	2	1				
特別活動論		3前	○	2				○	1						
教育社会学		2後			2			○			1				
生徒指導・進路指導		3前	○	2				○	1						
教育相談		3後	○	2				○		1					
教育経営学		3前			2			○	1						
初等教科教育法Ⅱ (国語)		3前	○	1				○	1						
初等教科教育法Ⅱ (社会)		3前	○	1				○	1						
初等教科教育法Ⅱ (算数)		3前	○	1				○	1						
初等教科教育法Ⅱ (理科)		3前	○	1				○		1					
教員になるための学校防災		3前	○	2				○				1			
環境教育論		2前			2			○			1				
地域社会の教育計画		3後			2			○			1				
教職実践演習 (幼・小・中・高)		4後	○	2				○		1	1				
教職大学院への招待		2前			2			○		1					
学習開発フィールドワーク	2後			2				○	1						
発展 科目	教育臨床体験 (教育ボランティア)	2前・後			2				○	1	1				
	教育臨床体験 (適応教室)	4前・後			2				○		1				
	地域学校協働インターンシップ	4前・後			1				○	2					
	社会と学力	2後			2				○			1			
	保育内容 (健康)	2後			2			○	1						
	保育内容 (人間関係)	3前			2			○		1					
	保育内容 (表現A)	3前			2			○	1						
	保育内容 (表現B)	3前			2			○				1			
	保育内容 (言葉)	3前			2			○	1						
	保育内容 (環境)	2後			2			○		1					
	幼児と言葉	2前			1			○	1						
	幼児と環境	2前			1			○			2				
	幼児と人間関係	2前			1			○		1					
	幼児と表現A	2後			1			○	1						
	幼児と表現B	2後			1			○	1						
	幼児と健康	2前			1			○	2						
	幼児教育指導法	2後			2			○			1				
	幼児の理解	3前			2			○			1				
	学校図書館メディアの構成	3前			2			○			1				
	学習指導と学校図書館	3前			2			○			1				
読書と豊かな人間性	3前			2			○				1				



幾何学基礎	1後	2	○		1						
幾何学発展	2後	2	○		1						
解析学概論	1前	2	○			1					
解析学基礎	1後	2	○			1					
解析学発展	3前	2	○		1						
確率・統計概論	2前	2	○			1					
統計学	2後	2	○			1					
多変量解析	3前	2	○			1					
プログラミング	2前	2	○	○						1	
コンピュータアーキテクチャ	2前	2	○		1						
データ構造とアルゴリズム	2後	2	○		1						
計算数学A	3前	2	○							1	
数学科教育法	2前	2	○		1						
数学の教材分析A	2後	2	○			1					
数学の教材分析B	3前	2	○			1					
数学科実践演習	3後	2		○	2	2					
物理学概論	2前	2	○		1						
物理学演習	3前	2		○	1						
物理学実験	2後	2			1		○				
計算物理学	2後	2	○		1						
物理学の基礎	3前	2	○		1						
応用物理学	3後	2	○		1						
化学概論	2前	2	○			1					
化学演習	3後	2		○	1						
化学実験	2後	2			1		○				
生物学概論	2前	2	○		1						
生物学演習	2後	2		○	1						
生物学実験	3前	2			1		○				
生物学臨海実習	2前・後	1.5			1		○				
生物学野外実習	2前・後	1.5			1		○				
地学概論	1後	2	○							1	
地学演習	3前	2		○						1	
地学実験	2前	2					○			1	
地学野外実習B	2前・後	2					○			1	
理科教育法	2前	2	○			1					
理科の教材分析A	2後	2		○	1	2					
理科の教材分析B	3前	2		○		2					
理科実践演習	3後	2		○		1					
英語学概説	2前	2	○							1	
英語学演習A	2後	2		○						1	
英語学演習B	3前	2		○						1	
第二言語習得論概論	2後	2	○		1						
第二言語習得論演習	3前	2		○	1						
英語文学講読	2前	2	○			1					
英語文学と映像文化	3前	2	○			1					
英語文学演習	2後	2		○		1					
現代イギリス文学論	3前	2	○			1					
英語表現（英会話）基礎	2前	2		○		1					
英語表現（英会話）演習	3前	2		○		1					
英語表現（英作文）	2後	2	○		1						
異文化コミュニケーション概論	2後	2		○		1					
異文化コミュニケーション特論	3前	2		○		1					
現代アメリカ事情演習	3前	2		○		1					
英語科教育法	2前	2	○		1						
英語の教材分析A	2後	2	○		1						
英語の教材分析B	3前	2	○		1	1					
英語科実践演習	3後	2		○	2	2					
特別課題演習Ⅰ	3前	2	○		20	16	6				
特別課題演習Ⅱ	3後	2	○		20	16	6				
学習開発デザインセミナーⅠ	3前	2	○		20	16	6				
学習開発デザインセミナーⅡ	3後	2	○		20	16	6				
教職実践基礎プレゼンテーション	4通	4	○		20	16	6				
卒業研究	4通	4	○		20	16	6				

文化 創生 コース	中心 科目	男女共同参画社会と教育	2前	○		2		○				1							
		地域社会とファシリテーション	2後	○		2		○		2			1						
		教育原論	1前			2		○			1								
		音楽史概説	1前			2		○			1								
		発達心理学	1後			2		○			1	1							
		造形史概説	1後			2		○			1								
		特別支援教育総論	1後			2		○					1						
		学校・地域における食育	2前			2		○			1	2		1					
		生涯学習論	2後			2		○					1						
		生涯スポーツ学	1前			2		○					1						
		フィールドプロジェクトA(つながる)	3前・後	○		4				○			1	2		1			
		フィールドプロジェクトB(のこす)	3前・後	○		4				○			1	1					
		フィールドプロジェクトC(つくる)	3前・後	○		4				○			1	3					
		フィールドプロジェクトD(ささえる)	3前・後	○		4				○			3	3		2			
		フィールドプロジェクトE(くらす)	3前・後	○		4				○			1	2					
		フィールドプロジェクトF(いかす)	3前・後	○		4				○				1					
基礎 科目	地域防災論	2後	○		2		○						1						
	食生活論	1前	○		2		○			2	1	1							
	ライフステージとスポーツ	1後	○		2		○						1						
	ライフステージと食	1前	○		2		○					1							
	ライフステージと心理支援	2前	○		2		○					2							
	音楽文化論	1後	○		2		○				3			1					
	デザインと文化	2後	○		2		○				1								
	地域文化実践論	2前			2		○				1	2							
	社会教育論	2前			2		○				1								
	生涯学習支援論A	2前			2		○				1								
	生涯学習支援論B	2後			2		○				1								
	学習心理学	2前			2		○				1								
	食文化論	1後			2		○				1								
	食と健康	1後			2		○						1						
	調理学実習	2前			1				○			1							
	栄養学概論	2前			2		○				1								
	食品と栄養	2前			2		○				1	1		1					
	調理と食生活設計	2前			2		○					1							
	スポーツ科学基礎論	1後			2		○				2	2		1					
	スポーツ社会学	2前			2		○				1								
	スポーツ生理学	2前			2		○				1								
	スポーツ原理	2前			2		○						1						
	地域スポーツ実技(夏季スポーツ)	2前			1				○		1								
	スポーツ心理学	2後			2		○							1					
	スポーツバイオメカニクス	2後			2		○						1						
	地域スポーツ実技(冬季スポーツ)	2後			1				○		1	1		1					
	心理学概論	1前			2		○				2								
	心理学統計法	1後			2		○							1					
	教育心理学(教育・学校心理学)	1後			2		○						1						
	認知心理学(知覚・認知心理学)	2前			2		○												
	学習心理学(学習・言語心理学)	2前			2		○				1								
	感情・人格心理学	2前			2		○						1		1				
	心理学実験	2前			4				○		2	2							
	心理学研究法	2後			2				○		1								
	臨床心理学概論	2後			2		○				2								
	音楽理論基礎	1前			2		○				1								
	ソルフェージュ基礎	1後			2		○				1								
	管弦打楽器奏法基礎	1後			2				○		1								
	鍵盤楽器奏法基礎	1後			2				○		1								
	声楽基礎	1後			2				○						1				
作曲法基礎	2前			2		○				1									
アンサンブル基礎	2後			2				○		2									
合唱基礎演習	2後			2				○		1			1						
合奏基礎演習	2後			2				○		1									
芸術アウトリーチ基礎	2前・後			2		○				2			1						
指揮法基礎	3前			2				○		1									
平面造形基礎	1前			2				○		1									
立体造形基礎	1後			2				○				1		1					
絵画基礎	2前			2				○		1									
彫刻基礎	2前			2				○				1							

	デザイン基礎	2前		2		○					1			
	工芸基礎	2前		2		○					1			
	立体造形文化論	2後		2		○				1				
	文化創造への招待	2前		2		○			1	1	1			
専門科目	食と疾病	2後		2		○					1			
	栄養学実験演習	2後		2			○		1					
	スポーツ栄養学実習演習	3前		2			○			1				
	地域食育実習演習	3前		2			○		1					
	調理加工科学実験	3後		1				○			1			
	スポーツ栄養学	2後		2			○				1			
	体育スポーツ実技（水泳・アクアスポーツ）	1前		1				○		1				
	コーチング論	2前		2			○			1		1		
	トレーニング論	2前		2			○			1				
	体育スポーツ実技（武道・陸上競技・体操）	2前		2					○		1			
	衛生・公衆衛生学	2後		2			○			1				
	体力測定演習	2後		2				○			1			
	スポーツ医科学	2後		2			○			1				
	体育スポーツ実技（球技）	2後		2					○		1	1		
	スポーツ史	3前		2			○				1			
	学校保健	3前		2			○			1				
	体育スポーツ実技（ダンス）	3前		1					○			1		
	スポーツ行政学	3前		2			○			1				
	スポーツマネジメント	3後		2			○				1			
	保健体育科教育法	2前		2			○					1		
	保健体育の教材分析A	2後		2			○					1		
	保健体育の教材分析B	3前		2			○			1		1		
	保健体育科実践演習	3後		2			○					1		
	産業・組織心理学	2前		2			○						1	
	司法・犯罪心理学	2後		2			○				1			
	障害者・障害児心理学	2後		2			○				1			
	健康・医療心理学	2後		2			○				1	1		
	福祉心理学	2後		2			○				1			
	人体の構造と機能及び疾病	2後		2			○			1				
	心理的アセスメント	3前		2				○				1		
	心理学的支援法	3前		2			○				1			
	家族心理学（社会・集団・家族心理学）	3後		2			○			1				
	管弦打楽器奏法応用演習	2前		2					○		1			
	鍵盤楽器奏法応用演習	2前		2					○		1			
	声楽応用演習	2前		2					○			1		
	作曲法応用	2後		2			○			1				
	舞台表現演習	2後		2					○			1		
	アンサンブル応用演習	3前		2					○		1			
	合唱応用演習	3前		2					○		1	1		
	合奏応用演習	3前		2					○		1			
日本音楽演習	3前		2					○		1				
音楽科教育法	2前		2			○			1					
音楽の教材分析A	2後		2			○			1					
音楽の教材分析B	3前		2			○			1					
音楽科実践演習	3後		2					○		3				
造形史特論	2前		2			○			1					
デザイン表現演習	2後		2					○		1	1			
絵画表現演習	2後		2					○		1				
彫刻表現演習	2後		2					○			1			
日本美術史概説	2後		2			○						1		
絵画応用演習	3前		2					○		1				
彫刻応用演習	3前		2					○			1			
彫刻論	3前		2			○				1				
生涯学習と造形	3前		2					○		1				
デザイン応用演習	3前		2					○			1			
絵画論	3後		2			○			1					
造形表現総合演習	3後		2					○		1	1	1		
美術の教材分析A	2後		2			○			1					
美術の教材分析B	2前		2			○					1			
美術科実践演習	3前		2					○		1	1	1		
社会教育施設	2前		2			○			1					
社会教育経営論A	3前		2			○			1					

	社会教育経営論B	3後		2	○		1								
	確率・統計概論	2前		2	○			1							
	統計学	2後		2	○				1						
	生物学概論	2前		2	○				1						
	生物学演習	2後		2		○			1						
発展科目	キャリア教育	2後		2		○		1	1						
	生涯スポーツ実技（ラケット・バット・レクリエーションスポーツ）	3前		2			○	1							
	公認心理師の職責	3前		2		○								1	
	心理演習	3前		2			○	2	3	1					
	心理実習Ⅰ	3後・4前・後		1				2	3	1					
	心理実習Ⅱ	4前・後		1				2	3	1					
	総合表現基礎演習	3前		2			○	2		1					
	総合舞台芸術実践演習	3後		2			○	1		1					
	総合表現応用演習	3後		2			○	2		1					
	絵画技法演習	3後		2			○	1							
	彫刻技法演習	3後		2			○		1						
	博物館学(概論)	1前		2			○							1	
	博物館学(経営論)	2後		2			○							1	
	博物館学(資料論)	2後		2			○							1	
	社会教育実習	2前		2				○							1
	社会教育演習	3前		2				○	1						
	社会教育課題研究	3後		2				○	1						
	英語表現（英作文）	4後		2				○	1						
	文献資料講読A	3前		1				○	14	9	7				
	文献資料講読B	3後		1				○	14	9	7				
	教職論	2前		2			○		1						
	教育方法・技術（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）	2後		2			○			1					
	教育社会学	3前		2			○				1				
	教育経営学	3後		2			○		1		1				
	教育課程編成論	3後		2			○		1						
	特別活動論	3後		2			○		1						
	総合的な学習の時間論	3前		2			○		1						
	道徳教育の理論と実践	3前		2			○		1						
	生徒指導・進路指導	3前		2			○		1						
	教育相談	3後		2			○			1					
	環境教育論	2前		2			○			1					
	特別課題演習Ⅰ	3前	○	2				○	14	9	7				
特別課題演習Ⅱ	3後	○	2				○	14	9	7					
地域文化デザインセミナーⅠ	3前	○	2				○	14	9	7					
地域文化デザインセミナーⅡ	3後	○	2				○	14	9	7					
特別研究基礎プレゼンテーション	4通	○	4				○	14	9	7					
卒業研究	4通	○	4				○	14	9	7					
小計（382科目）				52	720	0	—	34	25	13	0	0	9		
合計（科目）		—	—	66	778	0	—	34	25	13	0	0	91		

学位又は称号	学士（教育学）、学士（学術）	学位又は学科の分野	教育学・保育学関係、音楽関係、美術関係、体育学関係、家政学関係
--------	----------------	-----------	---------------------------------

卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
【児童教育コース】 以下の要件を満たし合わせて130単位以上を修得すること。 1. 基盤共通教育科目 35単位 2. 専門教育科目（中心科目）10単位 3. 専門教育科目（基礎科目）36単位 4. 専門教育科目（専門科目）25単位 5. 専門教育科目（発展科目）12単位 6. 自由選択科目 12単位		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	15週
		1 時限の授業の標準時間	90分

（注）

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校学科の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主

要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。

- 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」を記入すること。

教育課程等の概要																
(連係協力学部：理学部理学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く教員
基盤共通教育科目	導入科目	スタートアップセミナー	1前		2										2	
		みずから学ぶ	1前		2										1	
		ライティングスキル	1前・後			2									2	
	基幹科目	人間・共生を考える	1前・後		2						5				2	25
		山形から考える	1前・後		2						2	1				23
		現代を生きる	1前		2											1
	教養科目	文化と社会	哲学	1前・後		2										1
			心理学	1前		2										1
			歴史学	1前・後		2										7
			文学	1前・後		2										2
			芸術	1前・後		2										1
			言語学	1前・後		2										3
			文化論	1前・後		2										8
			法学	1前・後		2										5
			経済学	1前・後		2										5
政治学			1前・後		2										2	
社会学			1前・後		2										3	
日本国憲法			1前・後		2										3	
自然と科学	数理科学	数理科学（データサイエンスⅠ）	1前	○	2						2	1			3	
		数理科学（データサイエンスⅡ）	1前	○	2									1		
		数理科学（数学Ⅰ）	1前	○	2						1		1			
		数理科学（数学Ⅱ）	1後	○	2							2				
		数理科学（数学Ⅲ）	1後	○	2							2				
		物理学	1前・後			2					2					4
		物理学（物理学Ⅰ）	1前	○	2						1					
		物理学（物理学Ⅱ）	1後	○	2						1					
		物理学（共通物理学実験）	1後	○	1						3	1				
		化学	1前・後			2						4				1
		化学（化学Ⅰ）	1前	○	2						2					
		化学（化学Ⅱ）	1後	○	2						1					
		化学（共通化学実験）	1後	○	1						1	1				
		生物科学	1前・後			2						1				2
		生物科学（生物学Ⅰ）	1前	○	2						2			1		
		生物科学（生物学Ⅱ）	1後	○	2						1	1				
		生物科学（共通生物学実験）	1後	○	1							1				
		地球科学	1前・後			2										1
		地球科学（地球科学Ⅰ）	1前	○	2						1	2		1		
		地球科学（地球科学Ⅱ）	1後	○	2							1				
地球科学（共通地球科学実験）	1前	○	1						4	3		2				
応用と学際	応用学際	1前・後			2										6	
		1後			2					1					11	
共通科目	コミュニケーション・スキル1	英語1	1前・後		2										5	
		ドイツ語	1前・後			1									4	
	コミュニケーション・スキル2	フランス語	1前・後			1									3	
		中国語	1前・後			1									3	
情報科学	情報処理スポーツ実技	1前			2										1	
		1前			2										1	
		1後			2										1	

	健康・スポーツ	健康・スポーツ科学 スポーツ実技 スポーツセミナー	1前・後 1前・後 1前			2 1 2		○ ○ ○		○						3 7 3			
	キャリアデザイン	キャリアデザイン	1前・後			2		○				1				2			
		小計 (54科目)	—	—	44	54	0	—	—	—	18	2	2	2	0	97			
専門教育科目	基礎専門教育科目	理学共通科目	理系のキャリアデザインA	1前	○	1		○			1								
		理系のキャリアデザインB	2前	○	1		○			1									
		インターンシップ	3前			2			○								1		
		サイエンスセミナー	1後	○	2			○			1								
		放射線取扱入門	3後			1		○			1								
		地域デジタルデザイン思考演習	2前			2		○			1								
		活用プログラミング	3後			2		○				1							
		サイエンスコミュニケーターA	3前			2			○		1								
		サイエンスコミュニケーターB	3後			2			○		1								
		サイエンスコミュニケーターC	3通			2			○		1								
		実践科学英語 I	2前			2			○		1								
		実践科学英語 II	2後			2			○			1							
		コミュニケーション英語 I	2~4通			2			○		1								
		コミュニケーション英語 II	2~4通			2			○		1								
		海外特別研修	1~4通			1				○		1							
		課題研究	4後			2						1							
基礎専門教育科目	理学基礎科目	微積分 I	2前	○	2			○			1								
		線形代数	2前	○	2			○			1								
		線形代数演習	2前	○	2			○				1							
		集合と位相 I	2前	○	2			○				1							
		数理統計学	2前	○	2			○			1								
		プログラミング	2前	○	2			○			1								
		力学	2前	○	2			○			1								
		電磁気学 I	2前	○	2			○			1								
		量子力学 I	2前	○	2			○			1								
		熱力学	2前	○	2			○				1							
		無機化学 I	2前	○	2			○			1								
		有機化学 I	2前	○	2			○			1								
		分析化学 I	2前	○	2			○			1								
		生物化学 I	2前	○	2			○			1								
		遺伝学 I	2前	○	2			○			1								
		細胞生物学 I	2前	○	2			○			1								
進化学 I	2前	○	2			○			1										
生態学 I	2前	○	2			○			1										
地質・古生物学 I	2前	○	2			○			1										
岩石・鉱物学 I	2前	○	2			○					1								
火山・地球物理学 I	2前	○	2			○				2									
自然災害科学	2前	○	2			○				2	1	1	1						
基礎専門教育科目	理学専門科目 (データサイエンスコースカリキュラム)	コンピュータアーキテクチャ	2前			2		○								1			
		データ構造とアルゴリズム	2後			2		○								1			
		離散数学	2後			2		○			1								
		応用数学	2後			2		○			1						1		
		応用プログラミング A	2後			2		○											
		計算科学	2後			2		○			1								
		計算理論	2後			2		○			1								
		機械学習入門	3前			2		○			1								
		応用プログラミング B	3前			2		○				1							
		応用解析学	3前			2		○			1								
		計算数学 A	3前			2		○				1							
		組合せ論	3前			2		○				1							
		多変量解析	3前			2		○								1			
		計算数学 B	3後			2		○			1								
		数理計画法	3後			2		○			1								
		データ解析	3後			2		○			1								
基礎情報理論	3後			2		○			1										
離散幾何	3後			2		○				1									
データサイエンス文献講読 A	4前			2		○			2			1							
データサイエンス文献講読 B	4後			2		○			2			1							
データサイエンス特講 A	3・4			1		○			2			1							

適宜開講

		データサイエンス特講B	3・4		1	○		2		1		適宜開講
		データサイエンス特講C	3・4		1	○		2		1		適宜開講
		データサイエンス特講D	3・4		1	○		2		1		適宜開講
基礎専門 教育科目	理学専門 科目 (数学 コース カリキュ ラム)	数理統計入門	2後		2	○			1			
		微分積分Ⅱ	2後		2	○			1			
		微分積分演習	2後		2	○		1				
		集合と位相Ⅱ	2後		2	○			1			
		集合と位相演習	2後		2	○		1				
		代数入門	2後		2	○			1			
		代数学A	3前		2	○			1			
		代数学C	3前		2	○			1			
		幾何学A	3前		2	○			1			
		幾何学C	3前		2	○			1			
		解析学	3前		2	○			1			
		微分方程式論	3前		2	○		1				
		確率論	3後		2	○		2				
		代数学B	3後		2	○			1			
		代数学D	3後		2	○		1				
		幾何学B	3後		2	○			1			
		幾何学D	3後		2	○				1		
数学文献講読A	4前		2	○		5	8	1				
数学文献講読B	4後		2	○		5	8	1				
数学特講A	3・4		2	○		5	8	1			適宜開講	
数学特講B	3・4		2	○		5	8	1			適宜開講	
数学特講C	3・4		1	○		5	8	1			適宜開講	
数学特講D	3・4		1	○		5	8	1			適宜開講	
基礎専門 教育科目	理学専門 科目 (物理 学 コース カリキュ ラム)	量子力学演習Ⅰ	2前		2	○				1		
		解析力学	2後		2	○		1				
		力学演習	2後		2	○					1	
		電磁気学Ⅱ	2後		2	○		1				
		電磁気学演習	2後		2	○		1				
		量子力学Ⅱ	2後		2	○		1				
		物理数学	2後		2	○		1				
		物理学実験Ⅰ	2後		2	○	○	1				
		熱・統計力学Ⅰ	3前		2	○		1				
		熱・統計力学演習	3前		2	○				1		
		量子力学演習Ⅱ	3前		2	○		1				
		放射線物理学	3前		2	○		1				
		物理学実験Ⅱ	3前		2	○	○	1				
		電磁気学・相対論	3前		2	○						1
		熱・統計力学Ⅱ	3後		2	○		1				
		量子力学Ⅲ	3後		2	○		1				
		現代天文学入門	3後		2	○		1				
		物性物理学	3後		2	○		1				
		素粒子原子核入門	3後		2	○		1				
		物理学セミナー	3後		2	○		11	2		2	
物理学文献講読A	4前		2	○		11	2		2			
物理学文献講読B	4後		2	○		11	2		2			
物理学特講A	3・4		1	○		11	2		2		適宜開講	
物理学特講B	3・4		1	○		11	2		2		適宜開講	
物理学特講C	3・4		1	○		11	2		2		適宜開講	
物理学特講D	3・4		1	○		11	2		2		適宜開講	
基礎専門 教育科目	理学専門 科目 (化学 コース カリキュ ラム)	分析化学実験	2前	○	2				1			
		物理化学Ⅰ	2後		2	○		1				
		無機化学Ⅱ	2後		2	○		1				
		有機化学Ⅱ	2後		2	○		1				
		分析化学Ⅱ	2後		2	○			1			
		生物化学Ⅱ	2後		2	○		1				
		物理化学実験	2後		2				1			
		生物化学実験	2後		2			1				
		無機化学実験	3前		2			1				
		有機化学実験	3前		2			1				
		物理化学Ⅱ	3前		2	○		1			1	
		無機化学Ⅲ	3前		2	○		1		1		
有機化学Ⅲ	3前		2	○		1		1				
分析化学Ⅲ	3前		2	○				1				



学位又は称号	学士（理学）	学位又は学科の分野	理学関係	
卒業・修了要件及び履修方法			授業期間等	
以下の要件を満たし合わせて124単位以上を修得すること。			1 学年の学期区分	2期
1. 基盤共通教育科目 48単位			1 学期の授業期間	15週
2. 専門教育科目・基盤専門教育科目（理学部共通科目） 6単位			1 時限の授業の標準時間	90分
3. 専門教育科目・基盤専門教育科目（理学基礎科目） 12単位				
4. 専門教育科目・基盤専門教育科目（理学専門科目） 40単位				
5. 卒業研究 10単位				
6. 自由科目 8単位				

(注)

- 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
  - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
  - 「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
(社会共創デジタル学環)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基盤共通教育科目	導入科目		この授業は、山形大学で学ぶ全体の導入科目である。具体的なテーマに取り組むことを基本としたアクティブラーニングの練習を通じて大学での学び方の基本（学びの型）を身につけ、基幹科目で学ぶ準備をする。授業を通じて大学生としての学びに必要な知識・技能・態度を身につけることを目的としている。 【授業の到達目標】 このスタートアップセミナーを履修した学生は 1) 大学で学ぶための基礎となる「調査・情報収集」「議論のための対話の基礎」「発表資料作成」「レポート作成」といった学びの技術について理解し、他者に対して説明する（述べる、記述する）ことができる。【知識・理解】 2) 前出のような学びの技術を具体的なテーマに則した課題探求学習の中で実施できる。【技能】 3) 身につけた技術を自ら活用し、主体的に学びを始めることができる。【態度・習慣】	
	スタートアップセミナー		大学1年生を対象に、この授業の活動を通して自律的な学修の手法を学び、学生みずからが学修課題を提案し、その学修目標を達成する。 【授業の到達目標】 以下のような課題設定-計画決定と実行（振り返りと改善）-目標達成の流れを学生が実行できる。 ・みずから学修課題を設定する。【知識・理解】 ・学修課題を明確な指標のある目標に直し、それを達成するためのプロセスを決定する。【技能】 ・みずから適宜進行状況や達成状況を確認し改善する。【態度・習慣】	
	みずから学ぶ		アカデミック・ライティングについて学び、日本語による文章作成能力の育成を目的とする。大学では、あらゆる場面で論理的な文章を書く力が求められるため、まず、アカデミック・ライティングとは何かを理解することを知識として得ることを目的とする。また、演習形式で自らの手で文章を作成し、教員からの添削等の機会を持つことで、大学および社会人として必要となる文章力および思考力を身につける。	
学部導入セミナー	ライティングスキル		学環での学びと研究の意義と目的を理解するための講義である。本学環の学びは、変革する地域社会で誰も気づいていなかったコトをデータ計測や調査から発見し（データ思考力）、そこから新しい事業を起こす力を養うことである（アントレプレナーシップ）。「ゼロからコトを起こせる力」である。もう一つ大切なことは人との協働である。地域社会や人々の気持ちは、複合的、多面的、流動的であり、一人だけ事業目標の達成は困難である。個性と魅力に溢れる学生がそれぞれの学びの成果を持ち寄り、学際的に地域課題の発見や解決方法に取り組み、地域イノベーションにつなげる。本講義は、担当教員が学環カリキュラムの概要、研究アプローチ、具体例などを解説する。講義を通して、学環の学びの軸である「データ思考力」「アントレプレナーシップ」の意義を自分なりに理解し、どのように利活用すべきかなどを問う。また、学環での履修計画や実践研究に向けた各自のアプローチや研究対象を模索する。	共同
	人と共創 I	○	学環での学びと研究の意義と目的の理解を深める講義である。学環での学び・研究は、直接または間接的に人々のために役立つ。人のために役立つ活動を進捗するには、地域社会の人の理解、そしてエンバシーとシンパシーが大切である。この講義では、地域の多様な人々を招き、講話やパネルディスカッション等を実施する。講義では、事前に招くゲストの地域や仕事などの背景などを調べ理解した上で講義に臨む。ゲストからは成功事例だけでなく、苦い経験なども含めて、地域社会の現状や見方を学ぶ。講演を拝聴するだけでなく、地域の人々と受講生が意見や感想を話しながら、お互いを理解しあう事を目的とする。また、学環での履修計画や実践研究に向けた各自のアプローチや研究対象を模索する。	共同
	人と共創 II	○	学環での学びと研究の意義と目的の理解を深める講義である。学環での学び・研究は、直接または間接的に人々のために役立つ。人のために役立つ活動を進捗するには、地域社会の人の理解、そしてエンバシーとシンパシーが大切である。この講義では、地域の多様な人々を招き、講話やパネルディスカッション等を実施する。講義では、事前に招くゲストの地域や仕事などの背景などを調べ理解した上で講義に臨む。ゲストからは成功事例だけでなく、苦い経験なども含めて、地域社会の現状や見方を学ぶ。講演を拝聴するだけでなく、地域の人々と受講生が意見や感想を話しながら、お互いを理解しあう事を目的とする。また、学環での履修計画や実践研究に向けた各自のアプローチや研究対象を模索する。	共同

基幹科目	人間・共生を考える		エネルギー、経済、医療、食料、環境など、人々の生活がより豊かになるように、より便利になるように、基礎研究をもとにした様々な科学技術が開発され活用されている。しかし、そのことが、新たな社会問題を引き起こしているのも否めない。そして、その新たな問題を克服するために、またしても科学技術を活用した新たな解決が試みられる。このように、科学技術と現代社会は、相互に影響を及ぼし、相互に依存し、相互に発展する、という関係にあると言える。この点に着目し、科学技術と現代社会の相互共生関係について問題意識を持ちながら考察する。	
	山形から考える		本授業では、日本社会に特有の側面である「世間」について理解していく。世間は日本中のいたるところ、大都市や地方に、広い範囲のものから、狭いものまで、様々な形で浸透している。世間においては、人々がお互いに助け合うという特長もある一方、生きづらさを感じさせる特徴も持っている。江戸時代の人びとは「世間」で暮らしてきたが、明治時代になり文化は大きく変化した。そのような中、奥地であれば江戸時代の暮らしが残っていると考えたイザベラ・バードは明治初期、東北や北海道を訪ねた。そして『山形』に来て『東洋のアルカディア』を見つけた。本授業では、バードの「日本奥地紀行」を一つのきっかけとし、「世間」に関する様々な考え方を整理していく。	
	現代を生きる		今後の大学生活や社会生活で必要となる基礎的なスキルを理解し身につける。 【授業の到達目標】 現代的な学生スキルを理解し身につける。【知識・理解】 問題や課題を発見し学び続け、自らの可能性を高められる。【技能】 大学生活や社会生活に参加し相互作用しながら、社会やみずからのありように配慮できる。【態度・習慣】	
教養科目	文化と社会			
	哲学		哲学において論議されてきた諸問題の中から、普遍性の高い一群のテーマを取り上げ、問題の意味と、それをめぐる基礎概念や重要学説について解説を行うとともに、自らの考えを発表・討議する機会を通じて、哲学に関する初歩的な理解を得ることを目的とする。 【授業の到達目標】 ・哲学において伝統的に問われてきた問題の意味を理解する。【知識・理解】 ・また、その問題に取り組むために必要な基礎概念や、参照すべき代表的学説について初歩的な理解を身につける。【知識・理解】 ・さらに、一連の問題について自分の考えを形成し【態度・習慣】 ・発表・討議を通じて深める能力を身につける。【技能】	
	心理学		子どもの健全な発達を支える家族の役割について学び、考察を深めることを目的とする。 【授業の到達目標】 ・発達心理学、家族心理学に基づく科学的な実証研究の知見を踏まえて、子どもの発達を支える家族環境について理解し、説明することができる。【知識・理解】 ・子どもと家族を取り巻く現代的課題について議論し、子どもを育てる家族のあり方について主体的に考えることができる。【態度・習慣】	
	歴史学		この授業は基盤共通教育教養科目として、主として高等教育における「教養」「教養教育」の歴史を題材に基礎的知識を身につけ、歴史的思考力を養うことを目的とする。 【授業の到達目標】 1) 「教養」「教養教育」の歴史について基礎的知識を理解し、他者に対して説明する(述べる、記述する)ことができる。【知識・理解】 2) 「教養」「教養教育」の歴史に関連するテーマに則した問いを発し、探求学習を展開できる。【技能】 3) 「教養」「教養教育」の歴史に興味を持ち、来し方行く末を考えることに主体的に取り組むことができる。【態度・習慣】	
文学		日本の近代文学の中から長篇小説、夏目漱石『彼岸過迄』をとりあげ、全編を精読する。長篇小説を読み切ること、自ら精読して解釈することを目標とする。およそ100年までの小説を、今現在読んでいる自分の常識や価値観をあてはめて読む前に、作品に書き込まれた社会背景や考え方を知り、作品を精読して考えます。時代背景、思想、自意識などが、どのような表現によって描かれ価値づけられているかを、自らの精読を通じて考えられるようになることを目指す。また、エッセイ・コンテストを2回実施する。日頃、自分が感じていることを自由に表現したものを、受講生同士で読んでもらう。		

芸術		<p>古代から近現代にいたる西洋美術の歴史を概観し、それぞれの時代に特徴的な美のスタイルや作品が伝えるメッセージ、芸術家の問題意識などを学ぶ。これらを通し、美術作品が社会において多様な機能・役割を果たすものであることを理解する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>① さまざまな作品の分析を通して、時代のスタイル（様式）を見分ける眼を養う。【技能】</p> <p>② イメージが伝えるさまざまな物語や観念、芸術家の意識を分析することができるようになる。【態度・習慣】</p> <p>③ 芸術家をとりまく社会環境や思想潮流、宗教、政治などが、イメージの形成過程におよぼす影響を理解できるようになる。【知識・理解】</p>	
言語学		<p>人間のみが享受する「ことばの能力」を客観的に検討し、言語学における基本的な課題や問題意識について理解するとともに、言語学における研究内容や学問的課題を分析的・批判的に検討し、諸問題を自己に関わる問題として思慮し分析する態度や能力を養う。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>ことば・言語・文法を、人間の認知活動として議論することができる。【知識・理解】</p> <p>言語学における基本的な課題や問題意識について述べるができる。【知識・理解】</p> <p>言語学における研究内容や学問的課題を分析的・批判的に検討し、考察することができる。【態度・習慣】</p>	
文化論		<p>本授業の目的は、人と鳥との関わりを文化史的視点から見つめ、文化と歴史性を身に着けることである。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>1) 文化史に関する基本的な知識を身につけ、説明することができる。【知識・理解】</p> <p>2) 自分の考えを論理的に他人に伝えることができる。【技能】</p> <p>【授業概要（キーワード）】</p> <p>鳥、歴史、文化</p> <p>【学生主体型授業（アクティブラーニング）について】</p> <p>A-1. ミニッツペーパー、リフレクションペーパー等によって、自分の考えや意見をまとめ、文章を記述し提出する機会がある。：51～75%</p> <p>A-2. 小レポート等により、事前学習（下調べ、調査等含む）が必要な知識の上に思考力を問う形での文章を記述する機会がある。：1～25%</p>	
法学		<p>この講義では、映画作品に登場する社会問題や歴史的事件を憲法学の視点から紹介、分析、検討することを通じて、現代社会における憲法への理解を深めることを目的とする。映画という身近なメディアを通じて、普段考えることの少ないであろう法的問題を一緒に考えてみる。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>①映画を通して、法学・憲法学に関する初歩的な知識を習得することができる。【知識・理解】</p> <p>②映画に登場する法的問題や社会問題を発見し、調べ、自分なりに分析することができる。【技能】</p> <p>③自分とは異なる意見に触れることにより、多様かつ柔軟な視点を養うことができる。【態度・習慣】</p>	
経済学		<p>財政とは、政府の経済活動に伴う資金の出入りのことをいう。政府は、私たちから徴収した税金や、公債という、いわば「借金」からも資金を調達している。この資金を使って、社会保障や公共投資などの様々な政策が行われているのである。財政学は、こうした政府の経済活動を対象とした経済学の1つの分野である。このうち、この講義では、わが国の財政の状況や財政の役割について説明した上で、租税や公債といった歳入に関する経済理論の基礎を解説する。</p>	
政治学		<p>現在のグローバル化の時代において、私たちは環境問題や貧困、武力紛争、難民・移民など様々な地球規模の問題に直面している。この授業では、SDGsをなぞりながら、このようなグローバルな問題の背景や国内外のアクターによる対策を学び、国際社会における解決策を考える。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>SDGsを起点として、国際関係論の基礎的な知識も学びながら、現代の国際社会における諸問題を分析し、国際社会のアクターによる問題への取り組みや、より良い解決策を考える力を身に付ける。【知識・理解】</p>	

	社会学	この授業はドイツとヨーロッパと日本の理解を増やすことを目的とする。 【授業の到達目標】 ヨーロッパと日本はどのような点で違うのか、生活、教育、考え、歴史などを通じて考える。ドイツ出身の講師はヨーロッパの生活について、一般的ところを、ドイツのものと日本のことを比べながら分りやすく話す。同時に、参加者の留学生からも、日本人学生からも、意見と、それぞれの自分の生活体験についても聞くような進み方になる。【知識・理解】	
	日本国憲法	現代の多様な憲法問題を検討することを通して、民主社会に生きる市民の自由と責任について考えることを目的とする。講義の中で扱う人権問題や民主的統治システムに関する問題は多くが「難問」であり、往々にして意見が分かれる。日本国憲法についての基礎的知識を踏まえた上で、具体的問題についてどのような解決策があり、どれを選択すべきなのか、受講者と一緒に考えていく。	
自然と科学	数理学	高度情報化社会の現代において、私たちの身のまわりには膨大な量のデータがあふれている。たとえば、テレビや新聞の世論調査、広告・CMの「〇〇数NO1！」などのキャッチコピー、インターネットのアンケート調査など、様々なデータを毎日のように目にしている。それらのデータを知識なく、自分なりに解釈してしまうことに問題はないか。実は、データの裏側には「印象操作」を目的とした作成者の意図や調査の限界が隠れていることがあり、それを知らずに解釈してしまうと、重大な判断ミスにつながってしまうことが多々ある。そこで役に立つのが統計学の知識である。この授業では、マスコミ等によって伝達されるデータを正しく解釈できるようになること、また、コンピュータで自ら分析したデータに基づき、自身の考えを説明できるようになることを目標とする。	
	物理学	量子から宇宙にいたる様々な物理現象の理解を深めるため、背後に存在する「対称性」とその役割を通じてそれらを考える事で、物理学における基本的知識の習得および概念の理解を深めることを目的とする。 【授業の到達目標】 この講義を履修した学生は ・ 量子から宇宙にいたる様々な物理現象について基礎的な説明ができる。【知識・理解】 ・ 対称性について基礎的な説明ができる。【知識・理解】 ・ 物理法則において対称性が果たす役割について基礎的な説明ができる。【知識・理解】	
	化学	物質・生命科学の基礎を、身のまわりのモノや、環境・エネルギー問題、ナノテクノロジー、医療などの現実世界の課題と結びつけて理解し、説明できるようになることを目的とする。 【授業の到達目標】 (1) 生体物質や身のまわりのモノが、原子スケールから目に見える巨視的スケールまでどのように構成されているのかイメージできるようになる。【知識・理解】 (2) 最先端のテクノロジーに生命・物質科学がどのように貢献しているか説明できるようになり、関連する新聞記事などを批評的に読むことができるようになる。【知識・理解】【態度・習慣】	
	生物科学	生命科学分野の、主に細胞レベル、分子レベルのテーマに関する基礎的な理解を目的とする。 【授業の到達目標】 専門的な学習をするために必要な生命科学の基礎知識を理解できる。 【知識・理解】 【授業概要（キーワード）】 細胞、遺伝子、DNA、RNA、タンパク質、情報伝達 【科目の位置付け】 より専門的な知識を身につけるために必要な生命科学の基礎知識を習得するための科目です。 高校生物を未履修であり、化学の基礎的な知識を持つ学生を主な対象とします。 【SDGs（持続可能な開発目標）】 03. すべての人に健康と福祉を	
	地球科学	私たちが生きていくためにはさまざまなものが必要となる。その基本となるものが資源である。すなわち、資源とは私たちが生活するうえで必要なもの、あるいはその元になるものといえる。これらの資源は“生きている地球”だからこそできるものなのである。すなわち、地球は岩石圏、水圏、気圏からできており、その表層付近は生物圏ともいわれている。これらの層構造の内部と相互では活発な物質循環が起こり、その結果として資源が生まれている。本授業では、これらの成り立ちを解説するとともに、かけがえのない地球について考える。	

応用と学際	応用		プログラミングを通して、課題の解決方法への論理的な思考を身につけることを目的とする。 【授業の到達目標】 課題解決のための簡単なプログラムを作成できる。【知識・理解】 論理的な思考を持って、プログラムを構成できる。【技能】 さまざまなアルゴリズムを必要に応じて使用することができる。【知識・理解】【技能】	
	学際		SNSの普及に伴い、フェイクニュースやネットいじめの問題が増加している。フェイクニュースにより選挙がゆがめられるなどの影響も出ている。なぜ人々はネット上でアグレッシブな行動をとるのか、不用意にフェイクニュースをリツイートしてしまうのか、ネット上の人々の行動と心理について考える。今年度は、コロナデマやコロナに関するフェイクニュースの問題をテーマに取り上げる。	
共通科目	英語1	英語の4技能をバランスよく鍛錬することを目的とし、その中でもリーディングや文法に重点をおく授業である。 【授業の到達目標】 社会、文化、生活について一般的な語彙で表現された英語が理解できる。基本的な語彙や言い回しで、ある程度まとまった意見を交換したり、書いたりできる。 【授業概要（キーワード）】 英語、総合スキル、リーディング、文法 【学生主体型授業（アクティブラーニング）について】 A-1. ミニツッパパー、リフレクションペーパー等によって、自分の考えや意見をまとめ、文章を記述し提出する機会がある。：1～25% B-1. 学生同士の話し合いの中で互いの意見に触れる機会がある。：26～50% C-1. 自分の意見をまとめて発表する機会がある。：1～25% B-2. 事前学習（下調べ、調査等含む）をした上で、他の学生の意見を尊重しつつグループとしての結論を出すために議論をする機会がある。：1～25%		
	ドイツ語	初級文法、発音、英語との差異と親近性を知らせ、ドイツ語に関する基礎的な知識と能力を身につけることを目的とする。 【授業の到達目標】 自力でドイツ語を理解・発信するための基礎力を養成し、初歩の会話能力を身につける。【知識・理解】 基本的な単語を暗記して使用できるようになる。【技能】 【授業概要（キーワード）】 第二外国語（第三言語）、ヨーロッパ文化、ドイツ語 【学生主体型授業（アクティブラーニング）について】 B-1. 学生同士の話し合いの中で互いの意見に触れる機会がある。：1～25% D-1. 演習、実習、実験等を行う機会がある。：1～25% A-2. 小レポート等により、事前学習（下調べ、調査等含む）が必要な知識の上に思考力を問う形での文章を記述する機会がある。：1～25%		
	フランス語	フランス語入門 【授業の到達目標】 フランス語の初歩的な文法規則を身につける。【知識・理解】 簡単なフランス語会話（あいさつ、自己紹介など）ができるようになる。【技能】 【授業概要（キーワード）】 フランス語、フランス文化、フランス語圏旅行、フランス映画 【学生主体型授業（アクティブラーニング）について】 B-1. 学生同士の話し合いの中で互いの意見に触れる機会がある。：26～50% D-2. 事前学習（下調べ、調査等含む）で習得した知識等を踏まえて演習、実習、実験等を行う機会がある。：1～25% B-3. 習得した知識を活用する中で、学生グループがテーマや目的などを主体的に定めて課題探究型学習を行い、互いの考えを理解し合う中から新たに独自の意見や考え方を創り出す機会がある。：1～25%		
	中国語	本授業は中国語をゼロからスタートする学習者を対象に、中国語発音と入門レベルの日常会話をマスターすることを目的とする。 【授業の到達目標】 本授業を履修した学生は、 (1) ピンイン表記のルール及び簡単な日常会話の文型を習得する。 【知識・理解】 (2) ピンインを見て中国語を正確に発音し、初歩的会話ができる。 【技能】		
情報科学	情報処理		1) 今日の大学での勉学・研究活動に必須の条件となる、情報社会を生き抜くためのルールやマナー、セキュリティの知識を身につけるとともに、それを適切な場で、適切に使用できる能力を習得することを目的とする。 2) 山形大学の情報処理環境（コンピュータ、Office、ネットワーク等）を学ぶとともに、勉学・研究活動に必要なソフト（文書作成・プレゼンテーション・表作成）を、学生生活に必要な身近な題材を使用して体系的に学習する。	

		デジタルデータの種類・性質を理解して、現代社会を理解する上で必要不可欠なデジタルデータの扱い方を習得することを目的とする。 【授業の到達目標】 1. デジタルデータを活用するために必要となるスキルを説明できる。【知識・理解】 2. デジタルデータには、どんな種類・性質があるかを理解している。【知識・理解】 3. デジタルデータを理解するために必要な可視化のスキルを実行できる。【技能】 4. 実社会で、デジタルデータがどのように活用されているかを説明できる。【知識・理解】	
	データサイエンス (基礎)		
		【授業の目的】 AI・データサイエンスの知識を様々な専門分野へ応用し (AI×専門分野)、現実の課題解決、価値創造を行う上で、必要な知識を習得する。 【授業の到達目標】 1. データから各種の可視化で意味を抽出できる。【技能】 2. 得られた情報を客観的に分かりやすく説明できる。【知識・理解】 3. AIを活用し課題解決につなげる基礎能力を修得する。【知識・理解】 4. 自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点を獲得する。【知識・理解】 【授業概要 (キーワード)】 アルゴリズム、数学、統計学、機械学習、Python	
	データサイエンス (応用)		
健康・スポーツ	健康・スポーツ科学	1) 健康とスポーツ・身体運動などをキーワードとして、スポーツ・体育科学における、その概念や科学的知識について、スポーツ心理学およびアダプテッド・スポーツ科学の観点から理解する。 2) スポーツ・身体活動のみならず、健康の保持及び増進に関連する多様な要因についての代表的な知見について理解する。 【授業の到達目標】 1) 健康の概念やスポーツ心理学、アダプテッド・スポーツ科学にまつわる用語を理解し、適切に説明できるようになる。【知識・理解】 2) 健康とスポーツ・身体活動との関係について理解し、それらに関する科学的知見について適切に説明できるようになる。【知識・理解】 3) 自他の健康観や健康の保持・増進を図ることに対する関心を深め、生涯スポーツ実践を支える基礎的な力を身につけることができるようになる。【態度・習慣】	
	スポーツ実技	サッカー・フットサルを実践する技能を高めると同時に、サッカー・フットサルを媒体とし、他者とコミュニケーションを図ること、自分の身体や体力に目を向けることを目的とする。 【授業の到達目標】 (1) ゲームに必要なサッカー・フットサルの基本的な技能を習得する。【技能】 (2) 正しくルールを理解しゲームを実践できるようになる。【知識・理解】 (3) チームで対戦したり、戦術を共有したりする中で、コミュニケーション能力を身につける。【態度・習慣】 (4) 自分の身体に関心を持ち、運動能力や体力について分析できるようになる。【態度・習慣】	
	スポーツセミナー	本コースでは、スポーツマネジメントの理論や分野を基礎から学び、現在一般的なスポーツマーケティング戦略を、実践的なケーススタディやフィールドワークなどを通じて紹介することを目的とする。 【授業の到達目標】 この授業を履修した学生は、 1. スポーツマネジメントの理論や知識の基本的な理解。【知識・理解】 2. 文献検索や研究報告書の読み方の基本的なスキルを身につける。【技能】 3. スポーツマネジメントの実践例から問題を発見し、解決策を提案する能力を養う。【態度・習慣】	
キャリアデザイン	キャリアデザイン	皆さんは、これからの大学生活の目標や将来のキャリアについてどのように考えているか？まだやりたいことが見つからず、大学生活をどのように過ごせばよいか迷っている方もいるかと思う。そのような場合は、まず自分のことについてよく知ることが重要になる。本授業では「自己理解」をキーワードに、肯定的に自己を捉えた上で、自分らしさについて理解を深めることを目的とする。また、社会で求められる能力である「コミュニケーションスキル」の基本について学習する。	

専門教育科目	共創理論科目	共創デジタルソリューションⅠ	○	Society5.0社会を発展させるために、データは欠くことはできない。質の良いデータを適切に収集する力と適切に取り扱う力は、Society5.0社会で活躍する人材には必要不可欠な素養である。本講義はデータを安全・適切に扱うための情報リテラシーを習得し、実社会でデータを収集し、正しく取り扱える知識の習得を目的とする。標本データを収集する際には、調査対象（人、モノなど）や調査環境に対して十分に配慮をする必要がある。また、事故・トラブルに対応できる知識も必要である。講義では、データ収集の際に必要な手続きや承諾、個人情報保護やインフォームドコンセントの重要性を理解し、順守できる知識を習得する。また、メタデータ（付随記録）として重要な、実験（調査）ノートやメモの記載、記録整理方法を習得する。さらに、いくつかの標本データを用いて、データ前処理と基本的な統計処理方法を取得する。	共同
		共創デジタルソリューションⅡ	○	社会構造の理解や意思決定をする際に、データを解析し、相関やトレンド等を図・表などの情報に表現する力が必要である。また、膨大で複雑なデータを扱うデータサイエンティスト等と協働できる知識は、Society5.0社会を生き抜く上で大切な力である。この講義では、さまざまな形式のデータ、数値を可視化する表現方法を知り、活用できる素養を養うことを目的とする。本講義では、データ解析の際に用いられる基本的な用語や概念、基本的な数学や確率・統計の基礎知識を解説する。本講義で習得を目指す素養は、数式を解く力より「活用できる」点に焦点を絞り、表計算ソフトの数値計算マクロ等を使い、混沌としたデータからトレンドや相関を表現できる力を養う。講義後半では、より実践的な場面で想定した演習、時系列データの可視化や各種のモデルを想定した仮説検定等の課題を通し、受講者のデータ思考力を養う構成とする。	共同
		共創デジタルソリューションⅢ	○	社会情勢の変化や商品トレンドを映し出す一つ的手段として、オープンデータの活用は欠かせない。本講義はオープンデータを用いて、共創データサイエンスⅠ及びⅡで習得したデータ解析力や確率統計をより実践的な場面で活用できるようになることを目的とする。本講義はPBL型の講義を採用し、設定した課題に対して適切にデータを入力し可視化できる素養の習得を目指す。また、地理情報システムを活用し、収集したデータを地図上で可視化する力を養う。本講義の焦点は、クライアントから与えられた課題に対して、クライアントのニーズを理解し（デザイン思考）、適切なデータを選択し、適切かつ正確に可視化し、それらをクライアントに対して説明できる力を養う点にある。また、プレゼンテーションやグループワークを通し、調査対象や解析したデータを多角的、批判的に見る視点を養い、他者と共に仮説の設定や仮説検証の正しさ等を議論する力を養う。	共同
		共創デジタルソリューションⅣ	○	社会をデータで理解、表現するには解析力だけでなく、クライアントが理解できる情報として、正確かつインプレッシブに届けるデザイン力は不可欠である。また、先駆的な技術に興味を持ち、効果的に利用できる素養が必要とされる。この講義では、画像・動画データ、3Dモデリングの基礎知識とそれらを各種アプリケーションや独自プログラムで活用できることを目的とする。講義では、画像認識や生成AI（テキスト、画像など）の仕組みを理解し、安全かつ適切に利用する。画像・動画データの種類・構造の基礎を理解した上で、スマートフォンやドローンによる撮影、階調/色調等の調整等のデータ加工・編集の基礎を理解する。また、より先進的な技術を学ぶ機会を設け、例えばオープンデータと独自データの融合や独自アプリの開発により、課題解決に資する高度な分析ができることを学ぶ。	共同
		共創アントレプレナーシップⅠ	○	本講義は、スタートアップ事業計画の策定を目的とし、質の高い事業計画を作成できるようになるための要素の習得を目的とする。新規事業に必要な検討要素の理解と、課題と顧客定義から始まり、どのようにして商品に化けた価値を顧客へ届けるか、さらに一連の活動を可能にするための資金をどのように調達するかまで学ぶ。特に表面的な課題に対する解決策だけでなく、顧客のインサイトを得るまで課題を深掘り、深掘した真の課題（根本要因）に対する解決策こそが競争力ある商品へとつながることを学ぶ。資金調達や財務会計の学びを通じて、キャッシュの重要性について理解する。この科目での学びは、共創実践演習Ⅱ（1年後期開講）と連携し、実践演習では本講義で習得した知識をもと、事業計画策定を行う。	共同
		共創アントレプレナーシップⅡ	○	本講義では、アントレプレナーシップについて理解し、その精神を実行してみたと思えることをゴールとする。このゴール達成のために、アントレプレナーシップの構成要素である「自己効力感」「創造性」「リスクテイキング」「チームワーク」「価値創造」を、講義およびゲストスピーカーとのコミュニケーションを通じて育む内容とする。講義では、アントレプレナーシップの概念と基礎知識、および活用できる具体的な場面を習得する。アントレプレナーシップの重要性、必然性を理解するために、実際の起業家・経営者を招き、現場のリアルな肌感と学生が目指す人物像を体感させる。また、アントレプレナーシップから生まれるイノベーションについて理解を深めるために、地域企業の具体例など例に挙げながら講義する。また、地域課題や問題の全体像を把握するために、システム思考の基礎を習得する。	共同

	共創アントレプレナーシップⅢ	○	この講義では、組織を牽引するリーダーとして、組織内外の「人」に仕事上の役割を果たしてもらうために必要な知識とアプローチ方法の習得を目的とする。また組織のビジョン実現に向けて「人」と関わる中で、起こり得るチャレンジとそれを克服するアプローチについて考察を交えながら解を導く。さらに架空の会社を経営できる「経営シミュレーション」を通じて、リーダーとしてどのような人材をどんな目的で配置するかを疑似体験し、同体験からも「人に活躍してもらう」ための要素を学ぶ。講義では、コミュニケーション技法や交渉術および意思決定の手法を学び、組織やグループにおけるリーダーとフォロワーのそれぞれの役割を理解し、協働の大切さと意義を体感する。また、「事業」を成長軌道にのせるために、どのように「人」に着目した戦略を構築するかを学ぶ。PBL型の講義を採用し、経営シミュレーションを行いながら、人との交渉や組織成長の方法を学ぶ。	共同
	共創アントレプレナーシップⅣ	○	本講義では、地域の社会課題を事業で解決するために特徴的なアプローチについて学ぶ。具体的には、起業や新規事業立上げに見出され、社会課題の解決を優先したアプローチと、いわゆる営利を優先とする事業開発のアプローチの違いについて理解する。また試行的、先駆的な事業運営において、当初の計画を修正しながら前に進めていく場面があり、事業の修正を進めていくためのアプローチやPDCAについても学ぶ。さらに、1年生前期から2年生後期に至る総括として、事業戦略構築と実践に重きを置いた架空の会社の経営シミュレーションを通じて経営する。同経営疑似体験により、「戦略と成長」について振り返りにより学びを得る。	共同
共創実践科目	共創実践演習Ⅰ	○	地域社会の解明や新規の事業・企画を実施する際、地域社会の構造、地域活動やビジネス、そこで暮らす人々を、俯瞰的かつエンバシーを持ちながら理解する視点が大切である。地域活動の輪の中に入り、共に活動することは、地域社会を理解する一つの大切な手段である。地域に入り活動することで、そこで暮らす人々の気持ちや地域社会の構造・課題、活動の背景に対する理解を深められる。本演習では、大学近隣の自治会や公民館、町内会が実施しているボランティア活動やイベントにフォロワーとして参加する。活動の企画・運営組織や運営の仕組みを理解する。また活動を通して、地域社会の構造や人々を理解できることを知る。本演習では、活動やイベントについてアンケートやヒアリング等を通して、それら活動に関わる人々の意識や課題を浮き彫りする方法を習得する。	共同
	共創実践演習Ⅱ	○	地域で新たなビジネス・企画等を立ち上げ、持続的な運営に必要な知識とマインド、実践力を養う必要がある。共創実践演習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの一つの目標として、店舗・事業経営等の企画、運営、決算報告までの一連の過程を実践する。実践的な演習を通し、大学の授業の枠の中で、経営の困難さや失敗を体感し、実社会に出てから力強く事を起こせる、柔軟かつ強靱なマインドやスキルの習得にある。実践演習Ⅱでは、店舗経営のための事業計画を立てるための知識とスキル習得を目的とする。主として、「事業計画の提案」「資金調達」「仮説調査」「許可・申請」「マーケティング」について、演習形式の個人およびグループワークにより、基礎スキルの取得を目的とする。講義では、グループワークを通して、ディスカッション能力の向上と選択・判断に至るまでのプロセスの理解を実践的に学ぶ。	共同
	共創実践演習Ⅲ	○	本演習は、共創実践演習Ⅱの事業計画に基づき、店舗経営を実践する。実店舗は、山形大学小白川キャンパスのオープンスペース（約400㎡）を活用する。演習では、店舗運営計画を策定し、店舗経営に必要な知識とスキル習得を目的とする。店舗は、地域の食材を活かしたカフェや特産品のセレクトショップ、地域店のポップアップストア等の経営を想定する。また、学祭等における出店・企画も想定する。演習では、経営判断・改善に必要なデータを収集し、それらデータ解析に基づき、中間報告および事業修正案等を作成し、データ駆動型思考に基づく経営基礎スキルを取得する。並行し、地域社会・環境の調査・解明を目的とした演習の仮説構築と仮説検証の計画を立てる。データサイエンス科目群で習得するデータ収集・解析方法を用い、調査や環境計測に基づく、地域社会の現状把握の計画を策定する。計画策定後は、適時調査計測等を実施する。	共同

		<p>店舗経営に関する演習は、中間報告および事業修正案に基づき店舗経営を引き続き行う。演習期間終了時には、データ測定に基づく、評価と検証結果を含めた決算報告書としてまとめ、プレゼン・レポート等により実施報告を行う。</p> <p>地域社会現状と変革の調査・解明の演習では、調査、データ収集、解析・分析、考察(仮説)を実践し、地域社会、市場、環境に関する調査計測方法の基礎スキルおよび思考の習得を目的とする。具体的な調査、計測テーマとして、(1)位置情報に基づく、地域社会構造の可視化と理解、(2)地域の環境計測、生態調査に基づく地域環境の可視化と理解、(3)地域の市場調査に基づく、地域経済の可視化と理解、さらに(4)(1)～(3)等を複合的に組み合わせた総合的な演習も想定する。演習期間終盤には、ポスター等を作成し、調査結果の発表会を設け総合的に評価する。</p>	共同
		<p>本講義では、卒業研究テーマの策定と研究実施計画の作成を主な研究活動とする。学環では2つの研究領域を設ける。一つは、人口減少に伴い変革する社会・自然環境を明らかにし、まだ誰も気づいていない地域課題の発見や新規事業につながる「社会変貌の実態解明」。もう一つが、変革する地域社会で新たなビジネスモデルや事業を起こし、その効果検証を行う「事業モデル実践検証」を設ける。研究はグループまたは個人で実施することとする。地域社会を研究対象とするため、研究手法や必要とする専門領域が多岐、複合的であるため、研究指導体制に、マルチメンター制度を採用し、主メンターと副メンター(2～3名)を配置し、学際的に研究指導を行う。講義期間中、研究テーマ・対象地域、研究体制、企画等の計画書を学生が作成し、順次研究活動を開始する。講義期間終了時までには研究実施計画書を作成し、講義期間中に、研究プロジェクトのプレゼンテーションを行う。</p>	共同
		<p>グループ、個々で作成した研究計画に沿った研究活動を実施する。学生の研究活動は、主として山形大学小白川キャンパスに配置する演習室(Research Frontiers Laboratory)にて実施する。様々なテーマを遂行する学生と教員が同一空間で研究活動に取り組み、研究が学際的に融合、反応しあうことが期待される。講義期間中に、中間報告の発表会を設け、学環教員全員で各学生への研究指導を行う。報告会は、学環教育に関与いただいている外部関係者からも助言をいただくこととする。学生の研究進度に応じて、テーマ、対象地域、研究領域、メンター体制をフレキシブルに変更し、学生の多様で主体的な活動を認め、サポート指導できる研究環境とする。中間報告および研究指導を受け、次年度の研究計画を策定する。</p>	共同
		<p>グループ、個々で策定した研究計画に沿った研究活動を実施する。研究活動が上手く進み、その状況によっては、調査地域や測定項目拡張、店舗拡大等の展開が必要な場合も想定される。そこで、3年生との協働研究体制も可能とし、同時期に開講する共創実践研究IIと連携した研究指導を実施することとする。また、この時期は、学生の就職活動や公務員試験等の負荷が個々の学生によって異なる。適時メンターとの面談の機会を設け、各学生の就職活動の状況を把握し、実施方法や時期をメンターと相談しながら研究計画の調整し、個々の学生に応じた研究指導を行う。必要であれば、研究実施計画の修正等を行い、学生の状況に応じた丁寧な研究指導を実施する。</p>	共同
		<p>実践研究では、データサイエンスとアントレプレナーシップをスキルセットとして、変革する社会において、複合的かつ未知の地域課題に対してアプローチしてきた。特に研究活動においては、デジタル計測とそのデータ解析に基づく評価をベースとし、データ駆動型思考力にもとづく、研究方針、経営判断をできる人材育成を実施する。また、共有スペースにおける研究活動とおして、研究グループ間および学年を超えた研究融合を促し、学生が協働する研究環境整備を実施する。それら研究活動の総括として、1～2月に卒業研究発表会を実施し、研究活動の報告と評価を行う。研究発表会は公開とし、学環研究活動に参画いただいている外部関係者、他学部教員、学生からも助言をいただくこととする。また、各学生は、卒業研究論文(報告書)を作成、提出し成績の評価基準の一つとすることとする。</p>	共同
共創 専 門 科 目	経済	<p>この講義では、市場メカニズムの意義や課題を学ぶ。はじめに需要と供給の基本的な概念を説明する。特に価格の役割に注目し、様々な社会現象を市場メカニズムの考え方をを用いて説明できることを紹介する。続いて余剰分析の概念を解説し、市場メカニズムの意義や問題点を理解させる。講義では、理論的な思考力や、現実の社会現象を経済学的な視点から考える力を身に付けさせることを重視する。あわせて、地域の抱える課題を解決するために求められる基礎力の養成も目指す。</p>	
		共創実践演習Ⅳ	
		共創実践研究Ⅰ	
		共創実践研究Ⅱ	
		共創実践研究Ⅲ	
		共創実践研究Ⅳ	
		ミクロ経済学概論1	

マイクロ経済学概論 2		この講義では、マイクロ経済学概論1で学んだ内容を発展させ、消費や生産に関する基本的かつ重要な理論を解説する。特に、家計や企業の意思決定や経済行動について理解を深めることに力点を置く。講義では、経済学的な考え方を紹介し、理論的な思考力を身につけてもらう。あわせて、理論を用いて現実の社会現象の本質や課題を考えることにも重視する。地域の抱える課題を解決するために求められる基礎力や応用力を身につけてもらうことを目指す。	
マクロ経済学概論 1		マクロ経済学は、一国を対象に、経済活動の水準や物価水準がどう変動するかなどを分析する学問である。また、マクロ経済学では、一国の経済が財政政策や金融政策などのマクロ経済政策によってどう変化するかについても分析する。本講義の目的は、第一に、「一国の経済」を記述する指標を学ぶことである。第二に、一国の経済活動がどのように決まり、それがどのように経済政策の影響を受けるのかを、基礎的なマクロ経済モデルを通じて学ぶことである。	
マクロ経済学概論 2		マクロ経済学は、一国を対象に、経済活動の水準や物価水準がどう変動するかなどを分析する学問である。また、マクロ経済学では、一国の経済が財政政策や金融政策などのマクロ経済政策によってどう変化するかについても分析する。本講義の目的は、第一に、「マクロ経済学概論1」よりも発展的かつ現実的なマクロ経済モデルを学ぶことである。第二に、学習したマクロ経済モデルを用いて、履修者が一国の経済活動をより詳細に分析できるようになることである。	
経営学概論		この講義は、経営学の全体像を把握するために企業行動と外部環境との関係性や企業内部のマネジメントを理解することを目的としている。主なテーマとして、経営戦略、多角化と事業ポートフォリオ、資本構造・雇用構造のマネジメント、経営理念と組織文化、リーダーシップ等を取り上げる。この講義を通じて身近な経営事象が経営理論に基づいて生じていることを理解し、企業の現実の活動について経営学の観点から論理的に分析し、解決策を提案する力を身につける。	
経済学説史概論		この講義では、現代の経済社会を歴史的・俯瞰的な視野で理解するために必要となる、過去の主要な経済学説について理解することを目的としている。取り上げる学説は現代の経済理論・政策の意義を理解するために必須なものとし、主なテーマとしては自由主義（アダム・スミス）、社会主義（マルクス）、混合経済体制（ケインズ）、人的資本・産業集積論（マーシャル）、技術革新と経済発展（シュンペーター）等を扱う。これらの主要な経済学説を歴史・理論・政策の観点から把握することを通じて、経済学の発展とその歴史的意義を理解する能力を身につける。	
統計学 1		統計学の考え方や基本的な統計的手法に基づいて、一見、バラバラな数字の羅列にしか見えないデータから有益な情報あるいは自らの意思決定に役立てられるような情報を独力で得られるようになることが本講義の目的である。統計学2が後編であり、本講義はその前編である。 【授業の到達目標】 第1の到達目標は、記述統計学の考え方を正確に理解することです。 【知識・理解】 第2の到達目標は、現実のデータを記述統計学に基づいて分析する能力を身に付けることです。【技能】 第3の到達目標は、推測統計学を学ぶ上で基礎となる確率変数・確率分布などの正確な知識を身に付けることです。【知識・理解】	
統計学 2		統計学の考え方や基本的な統計的手法に基づいて、一見、バラバラな数字の羅列にしか見えないデータから有益な情報あるいは自らの意思決定に役立てられるような情報を独力で得られるようになることが本講義の目的である。統計学1が前編であり、本講義はその後編である。 【授業の到達目標】 第1の到達目標は、標本分布、統計的推測、統計的検定の正確な知識を身に付けることです。【知識・理解】 第2の到達目標は、これらの知識に基づいて、現実のデータを初歩的な統計的手法によって分析する能力を身に付けることです。【技能】	

会計学 1		<p>複式簿記の機構に支えられた現行企業会計の基本構造を理解することが目的である。本講義では、企業会計の役割を果たすために、企業の会計担当者などが企業の経済事象をどのように認識・測定して記録するのか、また、その記録にもとづいて決算財務諸表などの会計報告書をどのように作成するのかという一連のプロセスについて学ぶ。</p> <p>【授業計画】</p> <p>総論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会計学の概要および複式簿記の基本的論理構造 (1~4回)</li> <li>1. オリエンテーションおよびイントロダクション</li> <li>2. 会計および企業会計と複式簿記</li> <li>3. 記帳対象としての取引</li> <li>4. 複式簿記の歴史および基本的原理</li> <li>・ 企業会計の一連のプロセス (5~8回)</li> <li>5. 複式簿記の一巡 (1) 開始記入および期中取引の記入</li> <li>6. (2) 試算表・精算表の作成</li> <li>7. (3) 決算手続き</li> <li>8. (4) 財務諸表の作成</li> </ul> <p>各論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資産勘定の会計 (9~15回)</li> <li>9. 商品売買取引の例題による複式簿記の一巡</li> <li>10. 商品売買の仕訳・勘定処理</li> <li>11. 現金・預金と当座借越</li> <li>12. 売掛金と買掛金</li> <li>13. 受取手形と支払手形</li> <li>14. 有価証券</li> <li>15. まとめおよび期末試験</li> </ul>	
会計学 2		<p>複式簿記の機構に支えられた現行企業会計の基本構造を理解することが目的である。本講義では、企業会計の役割を果たすために、企業の会計担当者などは企業の経済事象をどのように認識・測定して記録するのか、また、その記録にもとづいて決算財務諸表などの会計報告書をどのように作成するのかという一連のプロセスについて学ぶ。</p> <p>【授業計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会計学1につづく資産勘定の会計 (16~19回)</li> <li>16. 消耗品、その他の債権・債務(1)</li> <li>17. その他の債権・債務(2)</li> <li>18. 有形固定資産</li> <li>19. 無形固定資産と投資その他の資産</li> <li>・ 負債勘定の会計 (20回)</li> <li>20. 負債勘定の会計</li> <li>・ 純資産勘定の会計(21回)</li> <li>21. 資本勘定の会計</li> <li>・ 収益・費用勘定の会計 (22~23回)</li> <li>22. 収益・費用の諸勘定と期間損益(1)</li> <li>23. 収益・費用の諸勘定と期間損益(2)</li> <li>・ 決算 (24~26回)</li> <li>24. 決算手続き(1)——試算表・清算表の作成——</li> <li>25. 決算手続き(2)——損益振替手続き——</li> <li>26. 決算手続き(3)——次期繰越手続き——</li> <li>・ 財務諸表の作成および読み方 (27~30回)</li> <li>27. 貸借対照表および損益計算書の作成(1)</li> <li>28. 貸借対照表および損益計算書の作成(2)</li> <li>29. 財務諸表を読む(1)</li> <li>30. まとめおよび期末試験</li> </ul>	
計量経済学 1		<p>回帰分析法に基づいて、一見、バラバラな数字の羅列にしか見えない多変量データから有益な情報あるいは自らの意思決定に役立てるような情報を独力で得られるようになることが本講義の目的である。計量経済学 2 が後編であり、本講義はその前編に相当する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>本講義では、計量経済学の中で最も頻繁に用いられる回帰分析法について解説します。</p> <p>第1の到達目標は、確率モデル、最小二乗法、単純回帰モデル、回帰係数の検定について正確な知識を身に付けることです。【知識・理解】</p> <p>第2の到達目標は、学んだ知識を生かして現実の経済データを分析する能力を身に付けることです。【技能】</p>	
計量経済学 2		<p>回帰分析法に基づいて、バラバラな数字の羅列にしか見えない多変量データから有益な情報あるいは自らの意思決定に役立てるような情報を独力で得られるようになることが本講義の目的である。計量経済学 1 が前編であり、本講義はその後編に相当する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>本講義では、計量経済学の中で最も頻繁に用いられる回帰分析法について解説します。理論的な解説に加えて、消費関数の推定など現実のデータに応用した例を示しながら、経済理論との関わりも解説します。</p> <p>第1の到達目標は、重回帰モデル、多重共線性、ダミー変数、自己相関、連立方程式モデルについて正確な知識を身に付けることです。【知識・理解】</p> <p>第2の到達目標は、学んだ知識を生かして現実の経済データを分析する能力を身に付けることです。【技能】</p>	

公共経済学		本講義は、政府や地方自治体などの公共部門が経済社会に対して果たすべき役割をミクロ経済学の考え方をを用いて検討する。講義を通じて、現代社会が直面している諸課題の本質や解決策に関する理解を深めてもらうことが目的である。特に、どのような場合に公共部門が政策的に介入したらよいか、どのような政策を選択したらよいか、そして、政策上の問題点として何が考えられるのか、について経済学的視点から理論的に考察できる力を身に付けてもらうことを目指す。	
地方財政論a		この講義では、わが国の地方財政の現状を踏まえながら、わが国の地方財政の制度（仕組み）を理解することを目的とする。前半は自治体の財政分析について説明して、地方財政の仕組みと現状についての理解を深める。後半は、地方自治の統治機構や地方財政の役割を整理した上で、国と地方との政府間財政関係の基本的な考え方を解説する。その後、地方税について、その税目や税率、超過課税や法定外税などを解説する。さらに、地方財政にとって不可欠な財源である地方交付税と国庫支出金の仕組みを解説する。地方交付税については、その目的と算定方法、財源調達の流れを国家財政と関連付けて解説する。国庫支出金については、国家財政による関与の形態から、国庫負担金、国庫委託金、国庫補助金のそれぞれについて解説する。また、地方交付税や国庫支出金と密接な関係を持つ地方債の仕組みや、地方財政の改善を促す財政健全化法についても解説する。	
環境経済学 1		経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。本授業では、経済学の枠組みを用いて環境問題を捉え、どのような政策が必要であるかを理論的に考える。 この授業では、以下の2つを最終目的とする。 ①環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に応用できるようになる。 ②排出量取引制度を疑似体験し、制度設計に必要な思考力を身に付ける。	
環境経済学 2		経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。本授業では、様々な環境問題に焦点をあて、どのような政策が必要であるか、経済学の視点から考える。また、実際の環境政策を概観・比較を行う。その際、経済学がどのように役立っているのかを明確にしなが、授業を進める。 この授業では、以下の2つを最終目的とする。 ①環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に応用できるようになる。 ②環境政策を立案するために必要な思考力を身に付ける。	
マーケティングa		企業におけるマーケティング課題の発見力や問題解決力を身につけるため、マーケティングの基本的概念、マーケティング基本戦略（市場細分化、ターゲット設定、製品差別化）を中心に、マーケティングの枠組み・方法論について理解することを目的とする。 【授業の到達目標】 1) マーケティング活動の全体像を述べる事ができる。【知識・理解】 2) マーケティングに関わる用語を列挙し述べる事ができる。【知識・理解】 3) マーケティング的な問題解決の仕方を判断できる。【知識・理解】 【授業概要（キーワード）】 マーケティング、商品開発、マーケティング・リサーチ、消費者行動	
マーケティングb		企業におけるマーケティング課題の発見力や問題解決力を身につけるため、マーケティングミックス（マーケティングの4P）を中心に、マーケティングの枠組み・方法論について理解することを目的とする。 【授業の到達目標】 1) マーケティング活動の全体像を述べる事ができる。【知識・理解】 2) マーケティングに関わる用語を列挙し述べる事ができる。【知識・理解】 3) マーケティング的な問題解決の仕方を判断できる。【知識・理解】 【授業概要（キーワード）】 マーケティング、マーケティングミックス、プロモーション	

		中小企業が規模が小さいがゆえに、中小企業は大企業とは異なる経営方針、戦略、働き方などの特徴があり、そのあり方は多様である。講義の目的は、①中小企業の二面性をふまえて、大企業と比較しながら中小企業の経営特性についての基礎的な知識を得ること、②産業別にそれぞれの中小企業がおかれている環境と経営特性との関連について理解を深めること、③中小企業の創業から退出までのライフサイクルを理解することである。全体を通じて中小企業の可能性と問題についての広い視野をもつことが目的である。	
		大企業との対比から捉えられる中小企業は、その経営資源の制約から弱い存在と長らく見なされ、政策的支援の対象とされてきた。しかし近年、中小企業はその経営特質から大企業とは異なる強みを発揮することで新産業を創出し、雇用の重要な担い手として認識されるようになってきた。講義の目的は、①中小企業に対する見方（中小企業観）の変化から中小企業研究や中小企業政策の潮流について基礎的な知識を得ること、②日本経済や産業発展の歩みと重ね合わせながら中小企業を理解すること、さらに、③人口減少・高齢化といった現代的課題に対して中小企業がどのような役割を担うのかの展望をもつことである。	
		本講義は、「ミクロ経済学1・2」で学んだ経済理論をさらに深く検討することによって、家計や企業の経済行動および市場メカニズムの機能や限界に関する応用的分析について理解を深めることを目的とする。本講義では、図や数式を用いた分析を行うことによって、経済現象の本質を理論的に解明する力を身に付けてもらうことを目指す。また、最適化行動、インセンティブなどの経済理論を現実の課題解決に応用できる能力を身に付けてもらうことも目指す。	
		本講義では、「将来期待を取り込んだマクロ経済モデル」や「経済成長モデル」など、「マクロ経済学1、2」の範囲を超えるより進んだ理論を学び、履修者がマクロ経済学をより深く理解できるようになることを目的とする。 【授業の到達目標】 履修者は、 (1)今後のマクロ経済の先行きや政策が経済に与える影響について、マクロ経済モデルを基礎に数量分析ができるようになる。【技能】 (2)「マクロ経済学1」および「マクロ経済学2」より進んだマクロ経済理論を学ぶことで、一国経済の現状や先行きを多角的に分析できる。【知識・理解】	
公共政策	地域政策論1	これまで、地域はさまざまな政策の影響を受けて変化してきた。その一方で、地域で発生した問題に対処するために新たな政策が考案された事例も数多く存在する。近年では特に地域政策の実施において、行政だけではなく、地域の企業や組織、住民個人といったさまざまな主体が参加することが求められてきている。このように、地域政策と地域との関わりや、政策に関わる主体が多様化しつつある現状を踏まえ、本授業ではさまざまな地域政策の事例から、各地域が持つ課題を解決するためにどのような主体によるどのような取り組みが求められているのかを考えることを目的とする。 「地域政策論1」では、まず地域政策を学ぶにあたっての基本的な概念を紹介する。そして、地域のさまざまな活動を維持するための地域政策の事例紹介を通して、各地域の実情に則した地域政策とは何かを考える。	
	地域政策論2	これまで、地域はさまざまな政策の影響を受けて変化してきた。その一方で、地域で発生した問題に対処するために新たな政策が考案された事例も数多く存在する。近年では特に地域政策の実施において、行政だけではなく、地域の企業や組織、住民個人といったさまざまな主体が参加することが求められてきている。このように、地域政策と地域との関わりや、政策に関わる主体が多様化しつつある現状を踏まえ、本授業ではさまざまな地域政策の事例から、各地域が持つ課題を解決するためにどのような主体によるどのような取り組みが求められているのかを考えることを目的とする。 「地域政策論2」では、都市問題とその対応策の紹介や、近年新たに行われている様々な地域政策を紹介する。特に、先端技術の活用や環境政策を中心に紹介し、将来の地域政策の在り方、各主体の役割について考える。 また、この授業の一部の回はYU-COE (M) (山形大学先進的研究拠点)「移民社会における多文化共生研究拠点」の活動の一環である(拠点の詳細については <a href="https://yu-imin.labby.jp/">https://yu-imin.labby.jp/</a> を参照)。	
	行政学a	行政とは、立法(国会)と司法(裁判所)以外の統治全般を意味する言葉である。これから分かるように、行政学は非常に幅広いテーマを対象とし、体系的に学ぶのが難しい学問である。そこで前期の授業では、中央政府に焦点を当てた上で、日本の行政の仕組みと活動の理解を深めることを目的とする。日本の行政はどのような歴史をたどり現在に至るのか、そしてどのような制度の下に展開しているのか、具体的な事例を挙げながら説明する。	

行政学b		<p>後期の授業では、主に地方政府に焦点を当てた上で、日本の地方自治の仕組みと活動の理解を深めることを目的とする。今日の地方自治は、中央政府よりも深刻な財政難と、少子高齢化、過疎化、災害といった日常生活の存続にかかわる公的課題に直面している。そのため自治体は、かつてのように単独で公共サービスを提供するのではなく、地域の企業や団体、住民との協働による公共サービスの提供を求められている。本講義では、こうした状況において、地方自治の実施体制がどのように構成されており、公的課題に対してどのように取り組んでいるのかを取り上げる。</p>	
地域防災論		<p>自然災害が多発する日本に生きる市民として相応しい、防災に関する基礎的な資質能力を育成する。</p> <p>【授業の到達目標】 自然環境についての基礎的知識をもとに、各種自然災害の原因について説明できる。市民の防災行動における自助と共助について理解し、自らの能力を踏まえた防災への取組や参画ができる。</p> <p>【授業概要（キーワード）】 自然災害、素因、誘因、防災</p> <p>【学生主体型授業（アクティブラーニング）について】 A-1. ミニッツペーパー、リフレクションペーパー等によって、自分の考えや意見をまとめ、文章を記述し提出する機会がある。：26～50% B-1. 学生同士の話し合いの中で互いの意見に触れる機会がある。：1～25% A-2. 小レポート等により、事前学習（下調べ、調査等含む）が必要な知識の上に思考力を問う形での文章を記述する機会がある。：1～25% A-3. 習得した知識を活用する中で、学生自身がテーマや目的などを主体的に定めて課題探究型学習を行い、その成果を記述する機会がある。：1～25%</p>	
自治体経営		<p>地方自治体の行政運営のあり方を、山形県という具体的な行政組織の活動を通して理解する。</p> <p>山形県という行政組織がどのように山形という地域を運営しているか、という観点から、約14人の現役県庁職員の方々に、県の行政機構や財政運営のしくみ、各行政施策現場の課題と現状について語ってもらう。これを通して現実社会の一端を学ぶ。</p> <p>【授業の到達目標】 地方自治体の行政運営のあり方を通して、今日の地方自治体が抱えている諸問題を理解し、公務員としてであれ、市民としてであれ、今後の地域社会経済にいかにか寄与していくかを考えるための基礎的な知識と能力とを身につける。</p>	
地域社会学		<p>地域社会の事象のしくみや連関について理解を深めることを目的とする。</p> <p>【授業の到達目標】 地域社会学の主要な用語と考え方を理解し、実際の事例に結び付けて考察する。</p> <p>【授業概要】 アーバンイズム（都市化）、居住分化、グローバル化と都市再編、地域コミュニティ、まちづくり、地域活性化</p> <p>【学生主体型授業（アクティブラーニング）について】 A-1. ミニッツペーパー、リフレクションペーパー等によって、自分の考えや意見をまとめ、文章を記述し提出する機会がある。：26～50% C-1. 自分の意見をまとめて発表する機会がある。：26～50% A-2. 小レポート等により、事前学習（下調べ、調査等含む）が必要な知識の上に思考力を問う形での文章を記述する機会がある。：26～25%</p>	
社会学概論		<p>1. 社会学に関する知識を身に付ける。 2. 社会で起こっているさまざまな事象について考える力を養う。</p> <p>【授業の到達目標】 (1) 社会学という学問の概要を理解することができる。【知識・理解】 (2) 社会学が扱う諸テーマについて基礎的知識を身につける。【知識・理解】 (3) 社会学の概念を使って、社会現象のメカニズムについて考察できるようにする。【態度・習慣】</p> <p>【授業概要（キーワード）】 社会学、ジェンダー、意図せざる結果</p> <p>【学生主体型授業（アクティブラーニング）について】 A-1. ミニッツペーパー、リフレクションペーパー等によって、自分の考えや意見をまとめ、文章を記述し提出する機会がある。：26～50%</p>	
調査方法論		<p>社会調査は社会の実情を知るための重要な方法のひとつである。社会調査には、国や地方公共団体が実施する統計調査や意識調査、マスコミがおこなう世論調査、企業がおこなうマーケティング調査などさまざまなものがあるが、いずれも実施にあたっては客観性や正確性を保つためのさまざまな知識や技法が必要になる。また、一般市民としてこれらの調査結果を正しく活用するためにも、調査法に関する知識が求められる。この授業では量的調査を中心に社会調査を行うための知識と技法を身につけてもらう。</p>	

社会統計学		<p>社会調査に必要な統計学の基本的知識を中心に講義することで、調査データの意味を読み取る力や、調査結果の誤った解釈を見抜く力を養う。また、実際にデータ分析に取り組むための基礎を身につける。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>(1) 調査データの分析に用いる基礎的な統計手法を理解することができる。【知識・理解】</p> <p>(2) 個々の変数の分布を把握し(度数分布や代表値、変動の測度、グラフの作成)、2変数の関連について分析すること(クロス表、平均の比較、散布図、相関係数)ができる。【技能】</p> <p>(3) 因果関係と相関関係を区別し、3つ以上の変数を用いた基礎的な因果分析を行うことができる。【技能】 (4) 社会調査や統計データの利用における倫理の重要性を認識することができる。【態度・習慣】</p>	
家族社会学		<p>本授業の目的は、家族の歴史の変容と現代の家族にまつわるトピックを読み解くために必要な知識を身につけることである。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>学生は、</p> <p>(1) 家族に関連する諸現象を読み解くための、基本的な理論的知識と思考枠組みを現代社会に応用できる。【知識・理解】</p> <p>(2) 実証的なデータや研究論文を批判的に読み解き、検討できる。【技能】</p> <p>(3) 身近な家族に関連する現象について、歴史的な文脈およびマクロな構造・制度と関連付けて考えることができる。【態度・習慣】</p>	
地理情報システム		<p>日常生活の中には、「位置」に関する情報を持った「地理空間情報」が数多く存在する。地域の課題に対応するには、こうした地理空間情報を的確に収集、分析、そして地図化することが有効である。そこで本授業では、地理空間情報の特性を理解し、その分析方法の一種である「地理情報システム (Geographic Information System)」の基本的な操作方法を習得することを目的とする。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>この講義を履修した学生は、</p> <p>(1) 地理空間情報の特性を理解することができる。【知識・理解】</p> <p>(2) 地理情報システムの基本的な操作ができる。【技能】</p> <p>(3) 自身でテーマを設定し、主題図を作成して説明できる。【知識・理解】 【技能】 【態度・習慣】</p>	
公共政策学 1		<p>現代日本のように、高度に発達した近代社会においては、公共政策が社会の存立の可否に直結するほど重要である。本講義では、公共政策学の体系的な知識を習得することによって、現代社会の仕組みや成り立ちの理解を促すことを目的とする。加えて、問題点や課題、それに対してどのような政策案がありうるかといったことに関しても概説する。このことにより、受講者が市民社会の一員として備えておくべき素養を身につけることを目指す。</p>	
公共政策学 2		<p>現代社会には、人口の減少や財源の縮小、貧困の拡大、大気汚染など、さまざまな問題がある。公共政策学とは、このような社会問題を解決するための学問である。公共政策が社会の中でどのように形成され、社会に対してどのような影響を与えているのかを検討する。本講義では、公共政策による問題解決のプロセスを、問題の発見—設計—決定—実施—評価に分類し、各段階について解説する。また、公共政策の主な担い手が政府であることを踏まえ、政府が問題解決のための資源(金銭、人間、情報、権限)をいかに社会から調達するのについても検討する。講義では、まず個別の公共政策における価値の対立や決定過程をいくつかの具体例を取り上げて紹介した後に、公共政策全体に共通する特徴を説明する。</p>	
市民社会論		<p>2016年の参院選から18歳に選挙権年齢が引き下げられたことにより、日本で若者が市民として社会に参加する道はより一層広がった。また、その参加目的も、地域の日常の困り事解決から、災害時の復興支援、さらには国境を超えた地球規模の課題解決と多様である。学生が参加していく市民社会とは、そもそもどこから生じたのか、その概念は誕生からどう変容してきたのか、日本ではどうか。また市民の社会運動と行政や民間企業などとの諸関係を理解するとともに、今後の課題を考えていく。</p>	
自然と科学 自然共創科学I (生物学)		<p>変革する地域社会の理解や地域イノベーションを思考する場合、そこで暮らす人々の健康、食、衣料、医療福祉、産業、自然環境は重要なコト・モノである。それらに対して、生物学の基礎知識は必要不可欠であり、また、各専門家と繋がり協働できる素養は、Society5.0で活躍するのに必要な力である。本講義は、高校で生物を履修していない学生も含め、高校から大学への接続的な生物学の基礎の習得を目的とする。講義では、主として高校生物学の内容(細胞、遺伝、個体、生態、進化など)をもとに講義する。</p>	

自然共創科学I (化学・エネルギー)		変革する地域社会の理解や地域イノベーションを思考する場合、産業、自然環境、エネルギーなどは重要なコト・モノである。特に再生可能エネルギーやカーボンニュートラル等を地域社会で展開する場合、化学や物理学の基礎知識は必要不可欠であり、また、各専門家と繋がり協働できる素養は、Society5.0で活躍するのに必要な力である。本講義は、化学とエネルギーに焦点を当て、高校で化学・物理学を履修していない学生も含め、高校から大学への接続的な化学やエネルギーに関する基礎の習得を目的とする。講義では、主として高校化学と物理学の内容(物質、化学反応、材料、力学、電気など)をもとに講義する。	
自然共創科学II (生物学)		変革する地域社会の理解や地域イノベーションを思考する場合、そこで暮らす人々の健康、食、衣料、医療福祉、産業、自然環境は重要なコト・モノである。それらに対して、生物学の基礎知識は必要不可欠であり、また、各専門家と繋がり協働できる素養は、Society5.0で活躍するのに必要な力である。本講義は、自然共創科学Iを履修した学生を主な対象とし、大学の専門科目への接続的な位置付けとして、生物学の習得を目的とする。講義では、主として生物学(生体分子、細胞、組織、個体など)について講義する。	
自然共創科学II (化学・エネルギー)		変革する地域社会の理解や地域イノベーションを思考する場合、産業、自然環境、エネルギーなどは重要なコト・モノである。特に再生可能エネルギーやカーボンニュートラル等を地域社会で展開する場合、化学や物理学の基礎知識は必要不可欠であり、また、各専門家と繋がり協働できる素養は、Society5.0で活躍するのに必要な力である。本講義は、化学とエネルギーに焦点を当て、主に自然共創科学(化学・エネルギー)を対象とし、大学の専門科目への接続的な化学やエネルギーに関する内容の習得を目的とする。講義では、主として化学と物理学の内容(化学反応、エネルギー、力学、電気など)を講義する。	
自然共創科学III (総合)		自然共創科学I・IIを通じて学習した生物学・化学・物理学の基礎的知識を地域社会の理解と課題解決につなげるため、より身近な現象と関連付けて応用的視点を持って理解できるよう講義する。講義の特徴としては、生物学の知識と「人々の暮らし・文化」、「自然環境」、「健康・スポーツ」、「科学技術」と関連させ、化学や物理学の知識と「産業」、「自然環境」、「エネルギー」、「科学技術」と関連させて解説し、自然科学を学ぶ意義や興味を持たせる。この講義により、科学に裏打ちされた多面的な地域理解と地域イノベーションの創出につながる人材の育成が期待される。	
データサイエンスI		授業で紹介されるいくつかの例を通して、データサイエンスに登場する専門用語や考え方に触れることにより、データサイエンスと呼ばれる分野を知り、慣れ親しむことが本授業の目的である。 【授業の到達目標】 この授業を履修した学生は、 (1)データから有用な情報や知識を見つける基本的な手順を説明できる。【知識・理解】 (2)データをサーチ・圧縮・数値解析するいくつかの手順を説明できる。【知識・理解】 (3)データサイエンスの社会における役割について、討議することができる。【態度・習慣】	
数学I		行列の定義や性質、連立方程式の解法、逆行列の存在・求め方について説明する。また、行列式の性質と具体的な計算法について学ぶ。 【授業の到達目標】 ・数列や関数の極限、および関数の微分概念を理解する。【知識・理解】 ・数列や関数の極限値を求めることができる。【技能】 ・関数を微分して、その極値を求めたり、展開式を求めることができる。【技能】 【授業概要(キーワード)】 数列や関数の極限、連続関数、関数の微分、平均値の定理、極値、関数の展開	
物理学I		物理学は自然科学、工学などの理系の学問の基礎になる重要な科目であり、その中でも力学は根幹をなす科目になる。この講義では、理系の専門科目を受ける上で必要となる物理の基礎学力を力学の学習を通して習得することを目的とする。 【授業の到達目標】 ・力と運動に関する基本法則について理解し、説明できる。【知識・理解】 ・基本法則を利用し、直線運動、回転運動等の基礎的な現象を説明できる。【知識・理解】 ・物理量(エネルギー・運動量・角運動量)の保存則を理解し、運動の説明に適用できる。【知識・理解】 ・基本法則の理解や運動の説明に必要な数学(微分積分等)を説明でき、使用できる。【技能】	

化学 I		<p>社会生活における広い視野・コミュニケーション能力・健全な批判精神等の醸成、並びに高等学校教育との接続に留意した理学分野の基礎的教育を基盤共通教育において行う。具体的には、化学は物質が示す様々な現象・性質・変化を原子や分子のレベルで捉え理解する学問である。その基礎を身に付けることがこの講義のねらいである。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 原子の構造と軌道の概念を理解できる。【知識・理解】</li> <li>2) 軌道を基にして化学結合を理解できる。【知識・理解】</li> <li>3) 原子・分子の集合体としての性質を理解できる。【知識・理解】</li> </ol>	
生物学 I		<p>本講義では、生物学の基礎知識を習得し、分子・細胞から個体まで生物学を構成する階層性に沿ったそれぞれの特性の概要を理解することを目的とする。また、遺伝、進化、個体群や群集の動態、生態系についても、それぞれの基本的な知識や法則の概要を理解することを目的とする。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生物学の理解に必要な基本的な知識を習得し、分子から個体につながる生物の基本的な特徴を理解できる。【知識・理解】</li> <li>2) 生物進化のメカニズム、生態的な階層性に関する基本的知識を習得し、進化学および生態学の基本的法則を理解できる。【知識・理解】</li> </ol>	
地球科学 I		<p>地球の初期進化、形状、内部構造など地球を概観し、地球を構成する物質、変動、生命史などを学び、地球について正しく理解することを目的とする。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>この授業を履修した学生は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地球や日本の成り立ちについて述べるができる。【知識・理解】</li> <li>2) 地球科学の分野で使用されている基本的な用語について説明できる。【知識・理解】</li> </ol> <p>【授業概要（キーワード）】</p> <p>地球科学、用語、地球の成り立ち、岩石の分類、生命の歴史、日本列島の成り立ち、地震、火山、大気・海洋の構造、物質循環、地球環境</p>	
データサイエンス II		<p>データサイエンス的な物の見方を身につけるため、その基礎をなす確率の概念や計算技術について学ぶ。</p> <p>データサイエンスで用いられる基本的な分析手法の概要を知る。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 確率、確率変数、確率分布といった確率論の基本的な概念を理解し、説明することができる。【知識・理解】</li> <li>(2) 相関係数やエントロピーなどの基本的な量を正しく計算することができる。【技能】</li> <li>(3) データ分析に用いられる基本的な分析手法の概要を説明することができる。【知識・理解】</li> </ol>	
数学 II		<p>ベクトルと行列の理解を深め、線形代数に慣れることを目的とする。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・線形空間の基本的な性質を説明できる。【知識・技能】</li> <li>・行列の固有値、固有ベクトルの計算および行列の対角化ができる。【知識・技能】</li> </ul> <p>【授業概要（キーワード）】</p> <p>線形独立、線形従属、固有値、固有ベクトル、対角化、内積、シュミットの直交化法</p> <p>【学生主体型授業（アクティブラーニング）について】</p> <p>D-1. 演習、実習、実験等を行う機会がある。：1～25%</p>	
物理学 II		<p>理系の専門教育科目を学ぶ上で、特に必要と思われる数学及び自然科学の物理学の基礎的知識を修得させることを目的としている。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>この科目群を履修した学生は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 物理学の基礎的知識を応用できる。【知識・理解】</li> <li>(2) 物理学で使用されている基本的な法則や用語について述べるができる。【態度・習慣】</li> <li>(3) 修得した物理学の基礎的知識を用いて理系の専門教育科目を学び始めることができる。【技能】</li> </ol> <p>【授業概要（キーワード）】</p> <p>電荷、電場、電位、電流、磁場</p>	

		<p>本講義は、化学において大切な化学平衡や化合物の反応性の基礎の習得を目的とする。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 酸塩基の定義を説明できる【知識・理解】</li> <li>2) 酸化還元反応を説明できる【知識・理解】</li> <li>3) 反応速度式を記述し、化学反応を説明できる【知識・理解】</li> <li>4) 有機化合物の構造およびその反応性を説明できる【知識・理解】</li> </ol> <p>【授業概要（キーワード）】</p> <p>エントロピー、反応速度、化学平衡、溶解度積、有機化合物、生体分子</p> <p>【学生主体型授業（アクティブラーニング）について】</p> <p>A-1. ミニッツペーパー、リフレクションペーパー等によって、自分の考えや意見をまとめ、文章を記述し提出する機会がある。：26～50%</p>	
	生物学Ⅱ	<p>本講義では、共創生物学Ⅰで解説した生物学の知識を基に、より発展的な事象を取り上げ、生物学の研究に際しての問題設定や考え、手法などを学修することを通して、現代生物学の理解に必要な基本的知識と考え方を習得することを目的とする。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 細胞と遺伝子の理解に必要な知識と研究手法を習得し、それらに基づいた現代生物学の成果を理解できる。【知識・理解】</li> <li>2) 習得した知識をもとにデータを分析・考察できる。【技能】</li> <li>3) 分析・考察した内容を適切に表現できる。【態度・習慣】</li> <li>4) 生物進化および生態学の理解に必要な基本的知識を習得し、それに基づいて先進的・現代的な課題について論じることができる。【技能】</li> <li>5) 自然環境と生物多様性が直面する問題点について学び、環境や生態系に与える人類の影響と生物多様性保全の必要性を理解できる。【知識・理解】</li> </ol>	
	地球科学Ⅱ	<p>岩石、鉱物、地殻、地質、古生物、火山、地震、地球史、自然災害、環境地質、気候変動などの地球科学に関する基本的事項を学ぶ。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>この授業を履修した学生が、岩石、鉱物、地殻、地質、古生物、火山、地震、地球史、自然災害、環境地質、気候変動などの地球科学に関する基本的事項について、理解し説明できるようになることを目標とする。【知識・理解】</p> <p>【授業概要（キーワード）】</p> <p>岩石、鉱物、地殻、地質、古生物、火山、地震、地球史、自然災害、環境地質、気候変動</p>	
	数学Ⅲ	<p>この授業の目的は、自然科学の専門分野を学ぶ上で必要となる微分積分の基礎を習得することである。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・微分積分の概念を理解できるようになること。【知識・理解】</li> <li>・微分積分に関する計算問題が解けるようになること。【技能】</li> </ul> <p>【授業概要（キーワード）】</p> <p>極限、微分、テイラー展開、定積分、不定積分、広義積分</p> <p>【科目の位置付け】</p> <p>ディプロマポリシー「2. 幅広い教養と汎用的技能：数学、物理学、化学、生物学、地球科学、情報科学などの理学全般にわたる科学・技術の基礎知識を身に付けている」に則り、理工系の基礎となる微分積分を理解することにより、学問の実践に必要な基礎的能力を身につけるものである。</p>	
学 際 科 目	日本中近世史概論	<p>日本の歴史において近代は、それまでの国家・社会のあり方を大きく変容させた時代であると同時に、私たちが生きる現代と密接な関わりをもつ時代である。ゆえに、日本の近代の特徴を知ることは、現代のさまざまな問題を考えるうえでも、極めて重要な意味を持っている。本授業では、日本の近代の歩みを、その時代的特質である中央集権国家と国際化（西洋化）の二つの視点を軸に考察することを通じて、日本近代史に関する基礎的な知識・時代背景の理解を得るとともに、近代から現代のさまざまな問題を歴史的な視点から考えるための思考力を身につけることを目的とする。</p>	
	日本近代史概論	<p>この授業では、遊牧と定住・都市をキーワードに、内陸アジアの王朝や社会の特徴を通時的に学ぶ。「定住」や「都市」は、遊牧とは相反するようですが、内陸アジアの諸王朝そして現代の諸国家の形成と発展に欠かせない重要な要素だった。講義では、歴史学だけでなく、考古学、環境学、文化人類学などの成果や、最新の分野横断型研究の成果も紹介しながら、遊牧社会の多様性を多角的・学際的に理解する手法を学ぶ。</p>	

立体造形文化論		<p>①日常製品の材料として身近に触れている「紙」と「土」を材料として、様々な幾何学形態を制作・考察しながら立体美の世界を探求する。「紙」と「土」がもつ素材の加工特性に着目し、基礎的な加工知識と技術（フォルムとモデリングの関係）を学ぶ。</p> <p>②「紙」と「土」に次いで身近な素材としての「木」の材料特性について概説し、その特性を生かした加工技術について、精度や強度を考察しながら計画的な制作方法（手順）を探求する。また、接合に用いる各種接着剤の硬化特性について、様々な材料・形状の条件下での制作実験を通して、使うためのデザイン制作に向けた基礎的な知識と加工技術を学ぶ。</p>	
彫刻論		<p>本講義は、彫刻という立体芸術についての基礎的な専門知識を身につけ、社会や地域における芸術文化の諸課題について考察するものである。彫刻という立体芸術がもつ、面・量感といった造形要素や実在性・孤立性といった芸術的特質を理解するとともに、江戸時代までは現在と同義の「彫刻」という呼称、概念をもたなかった日本において、明治時代以降どのように西洋の彫刻という概念が導入され、根付いてきたのかその歴史について概観する。日本及び西洋の近・現代彫刻作品の鑑賞を中心に講義し、江戸時代以前の立体芸術と西洋彫刻との関係を踏まえ、現代の彫刻という概念がどのように日本において形成されてきたのか、そして今後の彫刻作品はどうあるべきかを考察する。</p>	
文化人類学概論a		<p>文化人類学の基本的な考えを理解し、様々な研究アプローチについて学ぶ。自分たちが常識としていることを疑い、自らの思考を相対化する視座を身につけることを目的とする。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の相対化をとおして、「他なるもの」を受け入れ、理解する手がかかりを獲得する。</li> <li>・人類学の研究史を概観することで、この学問における考え方や基礎概念を身につける。</li> <li>・変化の激しい現代社会を生き抜くためのヒントを見つけることができる。</li> </ul>	
文化人類学概論b		<p>人間の多様性や普遍性を文化人類学の視点や切り口から理解する。それを通じて、われわれがつい「普通」であるとか、あるいは「普通でない」、と考えるしまうような事柄を相対化し、他者と自己について理解を深めることを目的とする。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>文化人類学の考え方および基礎概念を身につける。自分たちが当たり前と感じている身近な出来事や、現在起きている出来事を切り口として、文化人類学的な考え方を理解し、多様な視点から分析・考察できるようになる。また、民族、生業、家族、ジェンダー、宗教、儀礼、科学などのテーマを手掛かりに、異文化（あるいはそれを通じて自己）を理解する視点や手がかかりを獲得することができる。</p>	
情報科学概論		<p>日常生活において情報あるいはコンピュータとの関わりは増大しており、社会が求める情報科学やコンピュータおよび情報ネットワーク等に関する基本的な知識を身につけるために、情報科学における基本的な事項と情報化の理解を深めることを目的とする。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）情報の基本概念、情報理論、情報科学とコンピュータの関係、情報ネットワークの仕組みと活用事例などを説明し、記述できる。</li> <li>【地域・理解】</li> <li>（2）コンピュータによる情報の取扱いとデータを適切に表現して分類することができる。【技能】</li> <li>（3）情報化社会を支える情報科学の活用について、討議することができる。【態度・習慣】</li> </ol>	
人間情報科学概論		<p>人間情報科学には、人間情報に関する科学と人間に関する情報科学という2つの側面がある。この2つの側面の理解を深めるために、①人間と人間、あるいは人間と情報機械とのコミュニケーション、②人間が行う情報の処理や伝達、に焦点をあてて解説し、人間情報科学の基礎的な知識を得ることを目的とする。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）人間と情報機器のコミュニケーションと人間の情報処理を取り上げながら、人間情報科学の概要について説明できる。【知識・理解】</li> <li>（2）人間と情報機械のインタフェースの視点から、情報機器の問題点を指摘し、工夫・改善することができる。【技能】</li> <li>（3）「情報」と「人間」との関係性を考察し、情報化社会での人間と人間、人間と情報機械との関係を分析できるとともに、情報化社会の課題を整理することができる。【態度・習慣】</li> </ol>	

表象文化概論		表象文化論では従来の言語学や芸術学といった学問領域の枠を超えて、さまざまな文化現象を領域横断的に分析する。文学や美術といったハイカルチャーも扱いますが、同時に映画や写真、漫画、アニメ、ゲーム、ポスター、CMなどの比較的新しい表現媒体も考察の対象になる。記号論や精神分析学、メディア論などの方法論を使い、テキストやイメージの背後に潜む社会的・政治的イデオロギー、あるいは人々の思考パターンなどを抽出する。この講義ではこうした表象文化論の特徴的な考え方と方法論の基礎を解説する。	
文化人類学基礎演習a		人間の多様性や普遍性を文化人類学の視点や切り口から理解するための基礎を築く。また、文化人類学の考え方を通じて、われわれが「普通」であるとか、あるいは「普通でない」、と考えてしまうような事柄を相対化できるようになることを目的とする。 【授業の到達目標】 (1)文化人類学の考え方および基礎概念を身につける。 (2)文化人類学の基本的なテーマに関する研究をみていくことで、人類の基本的生活のあり方を文化人類学的に考察・分析することができるようになる。 (3)日本の様々な事例を通じて、文化人類学の研究方法を理解することができる。	
文化人類学基礎演習b		文化人類学的な「ものの見方」を理解するとともに、文化人類学の文献の読み方、議論の仕方を身につけることを目的とする。特に身の回りのさまざまなモノ（水、土、遺跡、鉄、衣装、絵画、家、道、血、臓器、骨、神像、皮膚、博物館、踏絵、ネット、人種差別、神霊、霊気、夢、火、すき間、人形など）に注目する。 【授業の到達目標】 この講義を履修した学生は、身の回りのさまざまなモノに関して、文化人類学の立場から具体的事例に基づいて説明できる。また、文化人類学的な「ものの見方」の特徴を自分の言葉で説明できる。さらに文化人類学の文献の読み方および議論の仕方の基礎を修得する。	
内陸アジア史概論		この授業では、遊牧と定住・都市をキーワードに、内陸アジアの王朝や社会の特徴を通時代的に学ぶ。「定住」や「都市」は、遊牧とは相反するようですが、内陸アジアの諸王朝そして現代の諸国家の形成と発展に欠かせない重要な要素だった。講義では、歴史学だけでなく、考古学、環境学、文化人類学などの成果や、最新の分野横断型研究の成果も紹介しながら、遊牧社会の多様性を多角的・学際的に理解する手法を学ぶ。 【授業の到達目標】 (1)内陸アジア史に関する通時代的知識や、講義で設定した重要なキーワードについて深く理解し、論理的に記述することができる。 (2)講義を手がかりに、自分でテーマを決め文献を調べ、分析することができる。	
地域アーカイブズ学基礎演習		地域の歩みを知るためには、先人たちが遺した文字資料＝史料を読み解くことが基本中の基本である。しかし、史料が必ず遺されているわけではなく、また史料からは単純には説明することができない事象も数多く存在する。本授業では、オーラル・ヒストリー（口述に基づく歴史記録）という方法により上記の問題点を克服すべく、その方法論をインタビューの実践を通じて身につけるとともに、インタビューを活用した展示の作成を通じて地域の歩みを跡づける技術を獲得することを目的とする。	
地域アーカイブズ学特殊講義		地域の歩みを研究するためには、国・都道府県・市町村で作成された公文書や、個人の家に伝えられた私文書、新聞・統計・地図・写真など、さまざまな史料＝地域アーカイブを収集し、それらを総合的に分析することが不可欠である。本授業では、地域アーカイブをさまざまな方法で収集し、それらを実際に読み解くことを通じて、地域アーカイブに関する専門的な知識を獲得するとともに、地域の歩みを研究する方法論を習得することを目的とする。	
地域アーカイブズ学演習		地域の歩みを研究するためには、国・都道府県・市町村で作成された公文書や、個人の家に伝えられた私文書、新聞・統計、あるいはオーラル・ヒストリー（口述に基づく歴史記録）など、さまざまな史料＝地域アーカイブを読み解くとともに、それらを永続的に後世に伝えていくことが必要不可欠である。本授業では、参加者による報告と質疑応答を通じ、地域アーカイブズ学の研究手法を学ぶとともに、自らの考えを発信し練磨する力を養うことを目的とする。	
課題演習（歴史文化実習）		この実習では、山形県および近隣の歴史的文物を調べ、その文物の来歴、発見から保管・展示に至る過程、研究成果や地域における評価などを明らかにした上で、今後その文物を博物館や地域でいかに利活用できるかを考える。 【授業の到達目標】 (1)地域の歴史的文物を、日本の歴史・文化、東アジアの歴史・文化と比較することでより深く理解できるようになる。 (2)博物館や地域に保管されている文化財の歴史や価値を協力して調べ、その成果を一般にわかりやすく発表できるようになる。	

課題演習（地域アーカイブズ学）		地域の歩みを知るためには、地域に遺されたさまざまな史料＝地域アーカイブを自らの手で扱う能力が求められる。本演習は、山形県に遺された地域アーカイブに実際に触れ、また地域アーカイブの整理を実践し、また、ボランティア団体である山形歴史遺産防災ネットワーク（山形ネット）の史料レスキューに参加することを通じて、調査・整理の方法、くずし字の読解など、地域アーカイブを扱う上で必要な基礎的知識を修得するとともに、地域アーカイブの歴史的価値を見出し後世に残す構えを身につけることを目的とする。	
ライフステージと食		本授業は、人の一生における食事の在り方について学習する科目である。したがって、胎児から高齢期にかけて様々な観点から食に関して学ぶ。授業の目的は、各ライフステージにおける身体状態や栄養状態に応じた栄養管理と、その基礎となる根拠について学ぶことである。具体的には、妊娠・授乳期から成人・高齢期にいたる各ライフステージにおける健康と栄養、および食生活の問題について学び、それぞれの身体状態や栄養状態に応じた科学的根拠に基づいた栄養学の考え方を理解できるようになることが必要である。	
食文化論		食の文化的特質について、社会科学および自然科学的視点から複合的に考究し、人々の心身の健康や社会の持続的な発展、新たな価値の創造に貢献するために必要な基礎的知識ならびに資質能力を習得することを目的とする。授業の導入において食文化の定義について解説した後、その国あるいは地域の地理や歴史、気候、産業、宗教等、食文化を規定する要因について概説する。無形文化遺産となった和食の特質の他、日本各地の食文化について概観した後、主食や嗜好飲料あるいは加工技術等、各回テーマを決めて、日本の伝統食と比較しながら、海外の特徴的な食文化を適宜選定して論考する。文献等の紙面資料と映像資料の双方を用いて具体的な事例を紹介しながら解説し、学生自身の調査活動等の演習的課題も組み入れる。	
食と健康		本授業は、今後社会人として身に付けておかなければならない栄養と食について身近な話題から最新の話題まで幅広く紹介するものとなる。したがって、授業の目的は、自分たちの身の回りにある「食」や「健康」に関する情報に目を向け、科学的な視点から考えることである。具体的には、自らの「食」と「健康」について考え、悪いところがあれば見直せる能力や身の回りにある、情報を正しく判断できる能力を習得することを目指す。本授業で学ぶことにより、食品成分について説明でき、得た知識を今後の生活で活用できるようになる。	
栄養学概論		この授業は、幅広い教養と汎用的技能を習得するために、地域の文化創生全般にわたる心身の健康に関する専門的知識習得のための基礎的知識を身に付けるものである。本授業では、なぜ、日常的に栄養素を摂取しなければ生きていけないのか、という生命活動の根幹を理解し、健康的で活動的な生活を過ごすための成分と機能を理解する。本授業により、栄養素に関する基礎的な知識と栄養素の体内作用を幅広く理解することができるようになる。また、「体に良い食事」の意味を理解した上で、健康的な日常生活を過ごすことができるようになる。	
調理と食生活設計		この授業は調理操作に伴う食品の変化や特性、食文化、食生活設計（食事設計）理論を学び、食事設計力を身につけるものである。授業の目的は、調理の意義や操作の科学的意味を学んだ上で、食生活設計に必要な知識を身につけ、実践力を養うことである。この授業により、調理操作に伴う化学的・物理的変化や食文化を説明でき、食生活設計の理論を理解し、実際に食生活設計ができるようになる。食生活設計作成は、授業時間外も利用して取り組み、調理は科学であり、偶然や勘で作るものではないことを学ぶことが必要である。	
地域食育実習		地域の特徴や課題をふまえて、人々の心身の健康や食文化の継承、さらには新たな価値の創造に貢献することを目指し、子どもから高齢者まで様々な人々を対象とした食育に必要な知識・技能や実践力を習得することを目的とする。授業の前半では、食育に必要な基礎的事項として、食品の栄養的特質、調理加工、食の安全・衛生、行事食や郷土料理、食品ロス等について解説する。授業の後半は、グループに分かれ、地域の教育機関や自治体等と連携し、フィールド調査を行って地域課題を分析し、対象に応じた適切な方法・内容を検討し、食育を計画する。各グループにおいて計画を実践した後、合同でグループごとに実践結果を発表し、相互評価を行うと共に、連携先からもフィードバックを受ける。	
心理学概論		本授業では、まず現代心理学の成立以降、心に関する学問である心理学がどのように展開してきたのかについて述べる。また、こうした展開の中で生み出された心を理解するための枠組みについて総論的に論じる。さらに、感覚・知覚をはじめとするさまざまな心理学においてなされた研究や知見について体験的な学習を交えながら幅広く紹介する。この授業により、心理学の歴史やさまざまな領域における心理学の基本的な概念について説明することができるようになる。心理学の研究法についてもその概要を説明することができるようになる。	

心理学統計法		心理学で用いる統計的手法について、基礎的な理論から、実践的な分析方法まで解説する。具体的には、心理学で用いるデータの種類とその要約方法、推測統計学や統計的因果推論の理論的基礎と実際に研究を行うための方法について解説を行い、人間の心を追究するデータ分析の初歩から学ぶ。心理統計学の理論的な基礎、とくに推測統計学や統計的因果推論についての理論的な背景を理解し、その上でデータ分析を行うことができるようになり、心理学的な研究の実際を学ぶことを目標とする。	
認知心理学		この授業は、人にやさしい社会や使いやすい道具などを探求するために認知科学の観点から論理的に分析し、解決策を提案する力を身につけるために編成される科目である。認知心理学は、人間が「ものごと」を認識する仕組みを「情報処理」としてとらえ、科学的に明らかにする学問である。この授業では、認知心理学、認知科学の基礎知識と理論的枠組みを学び、人間がどのように知識を獲得し、使用しているのかを学習する。認知心理学、認知科学の実験や現象を参考にしながら、人間の行動を情報処理モデルに基づいて説明する力を養うことを目標とする。	
産業・組織心理学		産業・組織心理学では産業界で活躍していくために必要なことを「自分」と「組織」の二つに分けて考えていく。「自分」の視点では自分のキャリアを見つめるために「よい仕事」と「うまい仕事」を取り上げる。「うまい仕事」はAIでもできるが、「よい仕事」は価値観を含むものであり、「人間らしい仕事」をするためには必須である。このほか、一人ひとりが活き活きと働くために精神的な健康に関する知識を取り上げる。「組織」の視点では「他者と共に働く」ということを中心に取り上げる。その際、人間関係の構築や効果的なコミュニケーションの取り方など、実践で役立つスキルを取り上げる。それだけではなく、組織とそれを取り巻く周辺地域の文化・風土にも着目し、社会課題の解決に役立てていく。	
ライフステージとスポーツ		年齢・体力・技術・興味・目的に応じたスポーツ・運動・身体活動の実践に関する基礎的知識やその諸課題について理解する。 【授業の到達目標】 1) ライフステージや発育・発達概念や定義、それにまつわる用語や専門的知識を理解し、適切に説明できる【知識・理解】 2) 年齢区分・女性・障がい者とスポーツの関係について理解し、それらに関する諸課題や科学的知見について適切に説明できる【知識・理解】 3) 豊かなスポーツライフの実現に向けたわが国の施策や現場で行われている実践を考察し、スポーツを用いた介入や運動処方計画することができる【態度・習慣】	
スポーツマネジメント		スポーツマネジメントの基本的な理論を理解する。また、様々な分野で実施されているスポーツマネジメントの事例から問題点を抽出し、その問題点を解決するためにどのようなマネジメントが必要かを示すことができる能力の育成を目指す。 【授業の到達目標】 (1) 本講義の授業内容を理解するため、まずは、スポーツ経営管理の基本的な構造（仕組みやシステム）についての基本的な知識を得ることを目的とする。 (2) 次に、様々な領域（学校、地域、公共・商業スポーツ施設やプロスポーツ等）で展開されるスポーツ現象について、経営管理学的な視点で捉え、またそのことについて理解や考察を深めることを目的とする。	
地域スポーツにおけるコーチング学		本講義では、地域活動において重要なコンテンツとなるスポーツを俯瞰するとともに、その基盤となるスポーツを実践する人々のニーズや目的に沿った活動の支援につながるコーチングの概要を理解し、基本的な知識やスキルを身につける。特にデータの見方を学び、地域でスポーツを実践する人々の実際を理解する。また、これらのデータに基づいた個人レベルでのスポーツ実践のファシリテートについて考えることを通して、個人から集団、地域レベルにおける様々な年代や志向を持つ人々のスポーツ活動の支援を通じた地域振興のあり方を考える。さらに、これらの内容をスポーツ以外の地域における活動にも応用できることを学び、コーチングやマネジメントについての理解を深める。	

スポーツ医科学		<p>「スポーツと健康」、「アスリートの外傷・障害」とその管理について実技や演習を交えながら講義する。</p> <p>【授業の到達目標】 健康づくりの考え方を理解し、実践できる。 アスリートの外傷・障害について予防と処置の両面から理解し、方法を実践できる。 コンディショニングに必要な知識・技術を活用することができる。</p> <p>【授業概要（キーワード）】 アスリート、スポーツ傷害、健康づくり</p> <p>【学生主体型授業（アクティブラーニング）について】 D-1. 演習、実習、実験等を行う機会がある。：1～25% D-2. 事前学習（下調べ、調査等含む）で習得した知識等を踏まえて演習、実習、実験等を行う機会がある。：1～25%</p>	
共創インターンシップ（国内）		<p>自治体・企業・特定非営利活動法人等における国内での研修を通じて、本学環で学んだ専門的知識と能力を応用し、地域課題の発見・解決能力を育成する実践科目として国内インターンシップ科目を開設する。本科目は、学生自らのキャリア形成に関する意識を喚起し、高い職業意識、自立心と責任感を育成することも目的とする。</p> <p>【授業の到達目標】 （１）実習を通じて、仕事を外見やイメージだけでなく、外部からは見えにくい部分を含めて総合的に理解できる。 （２）仕事に際して担う責任の重さとこれを果たしたときの充実感（働き甲斐）を感じとることができるようになると共に、自分の適性についてより深く理解できる。 （３）実習により社会人になるまでに身につけるべき能力や今後の学習目標についてより深く認識できる。</p>	
共創インターンシップ（国外）		<p>「アントレプレナーシップ」並びに「授業や実践演習で得た知識」を、大学では得ることができない環境や挑戦において発揮することを目的にインターンシップを科目として提供する。本インターンシップは海外を予定しており、異文化理解や英語等当該国の言語を実践的に使用するにより、言語スキルの向上も図る。また異なる文化やバックグラウンドを持つ人々と働くことにより、コミュニケーションスキルの向上も目指す。本インターンシップは、受け入れ企業または団体における実際のタスクやプロジェクトに取り組む。</p>	